藤田学園同窓会機関誌　33号

あけぼの杉

藤田学園同窓会

住　所　豊明市沓掛町田楽ケ窪
1番地98
発行人　藤田学園同窓会
機関誌委員会
発行日　平成25年12月1日

大学病院新病棟建設現場 ―2014年10月完成予定―

目　次

P. 2　藤田学園同窓会会長ご挨拶
P. 3　学校法人藤田学園理事長ご挨拶
P. 4　藤田保健衛生大学学長ご挨拶
P. 5　藤田保健衛生大学病院病院長ご挨拶
P. 6　藤田保健衛生大学医学部部長ご挨拶
P. 6　藤田保健衛生大学医療科学部部長ご挨拶
P. 7～8　就任のごあいさつ
P. 8～9　新教授のご紹介
P. 9～10　恩師からのお便り
P. 11～13　同窓会員の活躍
P. 14～19　創立50周年に向けて
P. 20～22　同窓会を開催して
P. 22　2013年国家試験合格率
P. 23　学園祭報告
P. 24　いこいの広場コンサート
P. 25～27　同窓会各部会お知らせ
P. 28～31　同窓会総会報告
P. 32　2014年度入学試験スケジュール

『藤田学園創立50周年 同窓会記念事業』への、ご参加とご協力をお願いいたします

藤田学園同窓会
会長
近松 均

同窓生の皆さまには、ますますご活躍のことと拝察いたします。

さて、先日はマドリードとイスタンブールとの招致合戦のすえ、東京で56年ぶりとなるオリンピックが7年後に開催されることが決定いたしました。IOC会長が2020 TOKYOと書かれたカードを封筒から取り出す感動的なシーンを、早朝の時間帯にもかかわらずテレビ中継でご覧になられた方も大勢いらっしゃったことでしょう。

今をさかのぼること49年前、1964年に東京でアジア初のオリンピックが開催されました。当時の日本は、科学技術の点でも経済力においても発展途上にありましたが、その後の国力の成長の著しさは皆さまご承知の通りです。

いみじくも、私たちの母校 藤田学園は、1964年東京オリンピックの年に設立されました。そして、日本の国力の成長と同期するように発展した結果、現在では27,000名を超える卒業生を輩出し、国内有数の医療系総合学園となり、いよいよ来年2014年には“創立50周年”というまさしく節目の年を迎えようとしています。

藤田学園同窓会では、この機会に『藤田学園創立50周年 同窓会記念事業』として、“藤田学園創立50周年 感謝の集い”の開催と、記念誌“Our Voices”の発刊、この二つの企画を実行すべく準備をしています。

私たちは、立派な医療従事者となる志を胸に藤田学園に入学しました。

そして、一生の恩師や友人らと出会いました。人と人との邂逅は偶然とは言いますが、友と将来の夢を語り合い、勉学やスポーツに勤しんだ学生時代に思いを巡らせば、出会いとご縁の不思議さを感じると同時に、深い感慨を覚えます。

そこで、2014年10月11日土曜日の夜には、友との運命の出会いを祝い、恩師の先生方には改めてお礼を申し上げるための機会として、“藤田学園創立50周年 感謝の集い”を藤田学園同窓会主催で開催いたします。

大勢の恩師の先生方をご招待する予定ですので、同窓生の皆様にはお誘い合わせのうえご参加いただき、“藤田学園創立50周年 感謝の集い”を盛り立てていただければ幸いです。

「自分たちの未来が明るく幸せなものでありたい」これは、この世に暮らすすべての人々に共通の願いです。

もちろん、未来を正確に予測することなど誰にもできません。しかし、自身や子孫の明るい未来のために、今のうちに何をしておけば良いのかをしっかり考えて、それを実行に移すことなら可能です。そして、今するべき事を考えるための大事なヒントは、過去から現在に至るまでの史実や資料の中に隠されています。

そこで、藤田学園同窓会が中心となって、藤田学園が創立された時代を知る先達の方々の力もお借りして、母校と一緒に発展の道を歩んだ同窓生ならではの視点で、この半世紀を総括し、母校と同窓会の関わりにおける重要な史実や資料を、後生のために遺しておくための記念誌の編集作業を進めています。

さらに、この記念誌には、同窓生の皆さまからメッセージを投稿していただき、そのすべてを掲載いたします。メッセージの内容は、母校への一言、恩師・友人・知人への一言、近況報告、随筆・小論、雑感など、何でも結構です。

お一人でも多くの同窓生から生の声(Voice)をお寄せいただくことができましたら、藤田卒コミュニティの輪が広がるばかりでなく、いま母校で学ぶ後進への激励にもなるはずです。ご自身の声を後世に遺すためにも、今すぐFAXでメッセージをお送りください。

なお記念誌は、“Our Voices”というタイトルをもって、2014年夏には編集を完了し、同年度内に同窓生の皆さま全員のお手元にお届けいたします。

つきましては、同窓生の皆さまには、母校の明るい未来のためにも、母校の未来を背負って立つ後進のためにも、ぜひとも『藤田学園創立50周年 同窓会記念事業』へのご協力とご参加をよろしくお願いいたします。

(平成25年9月30日 記)

藤田学園の発展をめざして

学校法人藤田学園
理事長
小野 雄一郎

藤田学園同窓会の皆様には日頃より学園に多大な御支援を賜り御礼申し上げます。

学園執行部は、この2年半の間、本学園の良き伝統の継承発展と、計画性・透明性のある運営と財政の健全化をめざしてまいりました。そして、5～10年先を展望した「中期経営努力目標と達成計画」の着実な遂行とともに、人材の獲得と研修を含む多彩な取り組みを推進してまいりました。

その結果、平成24年度には、前年度の諸工事完成に続き低侵襲画像診断・治療センター(放射線センター)を竣工するとともに、悲願であった大学病院新病棟の建設に着手することができました。また、新立体駐車場や医学部1号館第Ⅰ期耐震化、救急対応の精神科新病棟などの工事も予定通り完了することができました。更には、高齢化社会の要請に応えて、病院を有する大学としては全国初となる地域包括ケア中核センターをオープンし、医療と介護の円滑な連携をめざした取り組みを開始致しました。

本年の国家試験成績につきましては医療科学部、看護専門学校が例年通り全国トップクラスを堅持し、医学部も全国80校中16位と上位を維持しました。入学試験では総志願者数が8,000名を超え、史上最多であった昨年の1.26倍に達して学園の記録を大幅に更新致しました。昨年度から医学部の高学年生を対象にスタートした成績優秀者奨学金制度(年間350万円／人)について、本年度から対象を全ての学年に拡大して30名に適用しています。

また、各病院長・副院長をはじめとする教職員の献身的な努力により、昨年度はきわめて高い事業収益を達成することができました。

しかしながら、本学園をめぐる社会的環境は、建設費の高騰と消費税率引き上げ、医科系大学の授業料値下げ競争、競合する保健医療系学部・学科の増設、特定機能病院認定要件の厳格化、急性期病床再編の動向など、一層の厳しさを増しております。

1964年創立の本学園は、獨創一理の精神に基づき、良き医療人育成や患者さまの立場に立った医療をめざして、教職員の熱意に満ちた取り組みと同窓生の皆様のご支援を力として発展してまいりました。今後も本学園が国民や社会の期待や要請に応えて医学・医療の発展に貢献し続けるためには、我々は学園を取り巻く厳しい環境を乗り越えて更に前進しなければなりません。とりわけ、大学病院新棟、坂文種報德會病院新棟、医療科学部の生涯教育研修センター2号館を含む大規模なキャンパス整備を着実に進めることが必要不可欠となっております。

現在、創立から半世紀となる来年度に向け、50年史編纂や記念式典の準備を進めますとともに、創立50周年記念事業(第4期)としてキャンパス整備推進をめざした寄付金募集活動を実施しております。

同窓会の皆様には、これまでにも多くのご支援を賜っており大変恐縮には存じますが、本学園を取り巻く厳しい環境をご斟酌頂き、更なるご支援のほど是非とも宜しくお願い申し上げます。

豊明校地全景イメージ

将来計画案(約20年後)

建学の理念「獨創一理」を大切に

藤田保健衛生大学
学長
黒澤 良和

日本では、現在それぞれの大学が様々な角度から評価され、その点数に応じて公的な援助金額が決定される制度が動いています。本年度が７年に一度実施される「自己点検・評価報告書」を提出する年度に相当するために、その作成にかかわっております。報告書は、「大学の理念・目的は、適切に設定されているか」に答えるところから始まります。創設者藤田啓介先生は、実に多くの言葉を残しておりその多くが活字で残っておりますから、この部分は容易に記述できます。「獨創一理」「アセンブリ教育」「克己復禮」「師弟同行」等を説明します。続いて、「構成員に周知されているか」、「どのように効果が上がっているか」、「将来に向けてどのように改善するか」、それぞれ例を挙げて記述することが求められます。本学のような医療系総合大学の場合は、学生を迎え入れたからには、一人前の医療人として世に送り出すことが大学としての必須要件です。医学部卒業生の国家試験の成績がここ数年非常に高くなったことは喜ばしいことです。しかしこの結果のみを例にして、本学のレベルが「建学の理念」実現に近づいたとは思えませんし、そのようには主張できません。

よく理想と現実が比較されます。一方、我々は常に現実と向き合い、そこで起こる様々な問題を何とか解決しながら生きることが求められています。そのために、やがて理想を忘れ、現実の中で満足することを覚えます。

早稲田や慶応を例にするまでもなく、長い歴史を持つ私立大学では「校風」が育っています。そのような伝統を何が育てたかよく見ると、創設者がいてその人が掲げた建学の理念が、「道しるべ」として機能しています。

藤田先生が目標に掲げた「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく、医を行わん」とする医療人が脈々と育つ大学が簡単に実現するとは到底思えません。しかし、「理想を現実に近づけて、理想が達成できたかの如く錯覚する愚」は未来に何も生み出しません。まもなく藤田学園創設50周年を迎えますが、藤田啓介先生が、我々に何を託したかを皆さんと共に考える機会にしたいものです。

これからの藤田保健衛生大学病院

藤田保健衛生大学病院
病院長
星長 清隆

藤田学園同窓会の皆様におかれましては、全国の幅広い分野でご活躍のことと存じます。私は平成21年2月に第一教育病院長を拝命して以来4年半が経ちましたが、故総長藤田啓介先生が創られた病院理念、「我ら、弱き人々への無限の同情心もて、片時も自己に驕ることなく医を行わん」を常に拠り所としながら、約2600名の教職員の方々とともに藤田先生の夢を実現すべく懸命に頑張っております。先日も長野県の医療施設を見学させて頂いた際に、本学医学部出身のドクターのみならず医療科学部出身の方々が生き生きと活躍されている現場を拝見し、大変嬉しく思いました。

ここでは最近の藤田保健衛生大学病院群の現状ならびに将来構想について述べさせて頂きたいと存じます。まず大学病院の特徴として、研究と教育を行う大学としての重要な側面と、地域医療を担う市民病院的な側面を持っていることを常に考えておかなければなりません。医療技術の開発や、癌、難治疾患などに対する医療成績の向上などを目差す使命は言うまでもありませんが、加えて医学生や看護学生などの卒前の実地教育、研修医や若い医療従事者の卒後教育など、非常に重要な役割を担っています。一方、臨床領域では、いわゆる先進医療から高齢者医療や癌末期患者に対する緩和医療まで、実に幅広い分野で地域や社会に貢献する必要があります。実際、大学病院における手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いた悪性腫瘍手術分野では、肺癌から前立腺癌までの多臓器の癌手術において、当大学病院はわが国のトップに位置し、国内外から多くの医師たちが見学に訪れております。また、本大学はダヴィンチ新旧2機種による技術修練のための動物手術訓練用施設を持つ唯一の大学施設でもあります。さらに先端医療の一つである臓器移植の分野では、特に脳死者からの膵腎同時移植において、わが国最多の手術件数を維持し極めて良好な治療成績を残しております。さらに昨年9月にオープンした低侵襲画像診断・治療センター（放射線センター）では最新のCTやMRI、PET-CTなどの画像診断装置や最新鋭の癌治療装置などが常時稼働しており、ここにも内外からの見学者が多数訪れております。

一方、地域連携の分野では本年2月には医療科学部の先生方が中心となって「藤田保健衛生大学地域包括ケア中核センター」を立ち上げ、共同利用施設棟（旧レストピアふじた跡）に「24時間訪問看護ステーション」が開所されました。地区医師会のご理解もあり順調に在宅患者さんも増加し、6ヶ月後の現在では職員が不足状態となったため増員を図っているところです。

厚生労働省は財政難の中、超高齢化社会に対応できる医療体制として、来年度以降は施設を明確に区分けし、高度急性期、一般急性期、回復期、慢性期に特化した形でわが国の医療を推進するように指導しようとしております。これに対応し本大学病院では医療系総合大学である特徴を踏まえ、特定機能病院としての超急性期医療を担う以外に、リハビリテーションを主体とする回復期医療、さらに膠原病や変性疾患などの様々な難病を対象とする慢性疾患にも積極的に参画して行くつもりです。この方針に添って、現在建設中の741床の新病棟は主に急性期患者さんを対象とし、耐震改修と全面改装を行う予定にしている2号棟と一部改装を予定している3号棟には、精神科病棟に加え新設の回復期病棟（100－150床）や緩和病棟（約40床）なども配置し、総ベッド数1300床規模の大学病院として従来以上に効率的運用を図りたいと考えております。

一方、第二教育病院（坂文種報德會病院）では、新耐震基準に沿っているE病棟と新外来棟ならびに西棟は残し、旧耐震基準の他病棟は解体して、新たに新病棟を建設し、最終的には主要疾患に特化した幾つかのセンターを設立して、総病床数370床の急性期専門特化都市型病院として地域に貢献しようとする計画が進んでおります。

また、第三教育病院（七栗サナトリウム）では、旧耐震である藤田記念七栗研究所を敷地内の改装後の宿舎ななくりに移転させる計画が進んでおります。ここは事実上の藤田学園の発祥の地でもあり、故総長藤田啓介先生を偲ぶ記念碑的建造物として末永く存続させることを考えております。

以上、藤田保健衛生大学病院ならびに第二教育病院、第三教育病院の直近の将来構想を述べさせて頂きましたが、本院を含め全病院の将来像として「オール藤田」の発想のもと、それぞれの社会における役割を明確にして行く作業を創立50周年を契機に進めなければならないと考えております。藤田学園がさらに発展して行くためにも、同窓の諸先生方のご意見を拝聴させて頂きたいと存じます。今後とも、益々ご指導を賜りますようお願い致しますとともに、先生方の益々のご健勝とご活躍をお祈り致しております。

より優秀な人材育成をめざして

藤田保健衛生大学
医学部　部長
辻 孝雄

医学部の活動は教育、研究と診療から成り立っています。創設者の藤田啓介先生は、教育と研究を最重要視され、大学が大学たるべき基本理念は「より優秀な人材を育てること」にあるとされていたと考えます。しかし、現行の教育、研究の良し悪しは10年、20年後にしか判定出来ません。教育、研究の成果をあげるには非常に長い時間が必要です。しかし教育、研究の成果が本学の伝統を築くと考えます。

教育において我々が今「より優秀な人材を育てること」のために出来ることとして、第一に優秀な学生確保があります。そのために、透明性の高い入試、優秀な学生確保の体制作りが必要です。また、近年学生が学ぶべき医学知識が質、量ともに飛躍的に増大し、医師国家試験の相対的評価の導入により、医師国家試験合格基準が年々上昇していることから、医師になるためには、これまで以上に、高い理解力と知力、記憶力が要求されます。そのため、順応力の高い若い学生の入学が必要です。そこで、平成25年度から推薦入試の受験資格を現役と1浪とし、前期試験の定数を75名から60名にして、定員25名の後期試験を導入しました。その結果、後期試験では1,905名の受験生が集まりました。今後の検証が必要ではありますが、一般的には後期試験では非常に高いレベルの若い学生が本学に入学したと評価を受けています。

第二に、優秀な人材育成には、入学後の教育システムの充実が必要です。現在、全国医学部長病院長会議は各大学の医学部を国際標準で認証する制度を導入しています。この制度の主眼は臨床実習を72週（現在54週）にすることにあります。そこで、本学では松井教務委員長が中心となって平成27年4月開始予定の新カリキュラムを現在検討しています。

第三に、本学が優秀な医師を社会に送り出しているかどうかの判定基準として医師国家試験合格率があります。幸いに本学は過去3年間の新卒者の合格率は全国80校中、平成22、23と24年度で4位（合格率99％）、8位（98％）と13位（97％）でした。さらに浪人も含めた全体合格率も平成22、23と24年度では25位（92.2％）、26位（93.6％）と16位（94.7％）と上昇しています。新卒者の合格率アップは卒業生数を制限している訳ではなく、退学者を出さないことを基本にして、6年間の教育体制の充実を図った結果、このような実績を生むことが出来たと考えています。高い医師国家試験合格率は本学が社会により認知されるための必須事項であるだけでなく、本学卒業生の自信と自負、本学への愛着と誇りを生み、これらの事が本学の伝統を築いていくと私は確信します。

最後に、本学が将来さらに「優秀な人材を育てる大学」として社会により認知されるためには、教員、事務職員と藤医会の先生方のご支援無くしてなし得ません。是非同窓生の皆様には、宜しくご支援を賜りますようにお願い申しあげます。

医療科学部の今後3年間の目標

藤田保健衛生大学
医療科学部　部長
金田 嘉清

藤田学園同窓会は2009年に設立30周年を迎え、2013年には34周年を迎えると御聞きします。誠にご同慶の至りであります。

医療科学部は、1968年に衛生技術学科と衛生看護学科の2学科で衛生学部として開設され、1987年に診療放射線技術学科、2004年にリハビリテーション学科（理学療法専攻・作業療法専攻）を開設致しました。

その後、2008年、藤田保健衛生大学 衛生学部の名称を医療科学部に変更し、衛生技術学科、衛生看護学科、診療放射線技術学科の名称をそれぞれ臨床検査学科、看護学科、放射線学科に変更しました。

その年に臨床工学科、医療経営情報学科を増設し、医療科学部臨床検査学科、看護学科、放射線学科、リハビリテーション学科、臨床工学科、医療経営情報学科の6学科7専攻として、現在に至っております。

学校法人藤田学園は2011年4月より新たな理事会が発足し、10カ年計画で新学園構想が始まりました。医療科学部も同年8月より将来構想委員会を設置し、医療科学部の将来構想について8委員会（カリキュラム、学科目制、規程・規則、各委員会、採用・昇任等、入試・就職・国試、大学院、人事）で2013年の3月を目処に大幅な見直しを行い、10カ年計画に沿った、初期5年間の将来構想計画を立てました。約2年間の委員会活動の結果、その方向性は大きな柱

として固まりました。また、全国で初めて教育機関が教育、研究のみならず、地域の社会貢献を目指し、更に学生の実習、研修の場としての地域包括ケア中核センターを開設いたしました。

医療科学部の今後3年間の目標については、

①医療科学部の原点に戻り、良き学生を育てるため、教育に専念し、充実した教育ができるよう環境づくりを行う。
②生涯教育研修センター2号館の早期建設と新たな教育体制を構築する。
③若手教員のステップアップを目指し、教育・研究活動において出来る限りの協力･支援を行う。

上記のような基盤を固め、2016年4月からの後期学部改革5年間には新しい組織・機構づくりができるものと考えます。

1968年に開設した医療科学部（元衛生学部）も今年で45年を迎えます。藤田学園創設者、藤田啓介先生が建学の理念として掲げた『獨創一理』の精神をいつの時代でも揺らぐことがなく、時空を超えて通用する本学部のコンセプトとして貫いて来ました。「獨創一理」は多くの先輩たちがそうであったように、我々自身がもつ創造力で新しい時代を切り拓いていく力となり得る、という考え方を示したものです。その真理に触れたとき、既成概念にとらわれない自由な発想と大きな可能性を与えてくれることです。本学には生命科学本来のアカデミズムがあります。多くの難問を抱えながらも、一つ一つに真摯に取り組み解決を見出す医療人を育成し続けたいと考えます。

就任のごあいさつ

（順不同）

智慧と人間味あふれる同窓生の皆様に支えられています

藤田保健衛生大学
看護専門学校
校長
西村 徳代

平成25年4月1日から看護専門学校長を拝命いたしました。本校は准看護学校を前身として、看護師教育の二年課程定時制から平成12年に現在の三年課程を開設いたしました。私は開設準備より携わらせて頂き、二年課程の諸先生方を始め、学生の皆様に伝統ある本校の教えを伝授いただきました。そこで、今更ながらとご批判を頂くかもしれませんが、『かく生かされかく語りき』に〈藤田学園の基本的考え方〉がございましたので改めて可視化してみました。「学園として期待されるよい人―マチュアで、開放的で、フランクであり、恐るべき競争に耐えつつ、しかも自己を抑えて、少なくともグループの中では他をも助けるという、フロンティア・スピリットを持った学者、学生を学園の理事会、学事協議会、教授会が全面的に支援することである」と述べられ、さらに「教育は、実践を通して広い視野と高い教養を身につけさせ、特に専門教育は新聞のような知識、結論を羅列した教科書的知識の切り売りだけでなく、すさまじく進歩してゆく医学の生々しい研究の動向を学生に伝えるものでなければならない」さらに最後に「アセンブリ教育は、専門職の細分化が進む医療の今日的様相からとりわけ重視されなければならない」と述べられておりました。私は、下線部分を感慨深く拝読いたしました。

このような故総長藤田啓介先生の独創的な理念を同窓生の皆様は授受され、社会に名高くご貢献・ご活躍されており誇らしく思います。本校も、卒業生は11回生（H25年3月）迄に592名を送り出しました。過去の卒業生はよく努力し、国家試験に全員合格しています。卒業生592名の91％は、卒業と同時に就職し社会に貢献し、その中の498名（80％以上）は藤田学園関連の3施設に就職しています。就職しない学生の7％は、近隣の看護大学・助産師学校等へ進学しています。

看護専門学校は「看護を的確に実践できる」看護の実践者を育成するという目標がございます。今後も本学園の基本的考え方を礎に社会のニーズと向き合い、目標を目指し、学生個々の能力を引出しながら、教職員一同邁進してまいりたいと思います。今後とも同窓生の皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

医療科学部・放射線学科長に就任して

藤田保健衛生大学
医療科学部
放射線学科　学科長
鈴木 昇一

この度、平成25年4月1日、学園から医療科学部放射線学科長の辞令を拝命しました。前学科長の安野泰史教授が築き上げられた学科運営を精一杯、学生、学科、学園のため教育、研究に尽力できればと思っています。

本学科は、1987年に日本で最初の4年制大学、藤田保健衛生大学衛生学部診療放射線技術学科としてスタートしました。本年度入

学生は27回生となります。卒業生も1,000名を超え、多くの卒業生が臨床現場で活躍しています。本学出身者の教員も多く、本学の建学の精神を引き継ぎ、後継者の育成に関与していただいています。

病院実習では、昨年度、低侵襲画像・治療センター（放射線センター）が完成し、世界に類を見ないひとつの建物に放射線関連機器が配置された施設で学生は実習させていただいています。さらに、第一教育病院、第二教育病院に加え、名古屋市内の2つの大学病院と市中の中核病院1施設を加え、5病院で実習を行うという充実した体制で実習を行っています。

卒業生のほとんどが医療職についていますが、他大学の教員も数名います。中部地区の主要な病院において、放射線技術部門の管理者も増えてきています。故藤田啓介総長先生の教え「師弟同行」の結果、ここまでやってくることができました。医療現場においては、修士卒業生が徐々に多くなっています。博士の学位を有した診療放射線技師もいます。学部教育に加え、修士課程のレベルを現在以上に発展させるため、教育に力を注ぎたいと考えています。

国家試験は、全国平均66％、本学科は87％でした。学生諸君は健闘したのですが、指導については反省しています。しかし、開学以来、23回の国家試験で、100％が9回、平均合格率は96％となっています。本学科がこれまで築き上げた歴史を汚すことなく、ますます進化、発展するため微力ではありますが、教員一同頑張る所存です。学園内外のご支援ご鞭撻いただければ幸いです。

新教授のご紹介
（順不同）

母校の教授に就任して

藤田保健衛生大学
医学部　教授
（放射線医学）
外山 宏
（医学部７回生）

この度医学部放射線医学教授に就任いたしました。講座教授として責任のある立場であり、身の引き締まる思いでございます。昨年9月に藤田学園50周年事業としてオープンしました低侵襲画像診断・治療センターは、皆様の多大なるご支援の賜物と感謝申し上げます。最新の画像診断・治療機器を備えております。正確な診断、治療、地域連携の充実を目指してスタッフ一同努力していきたいと思います。私は学生時代ラグビー部に所属しており、ポジションはフッカーでした。医学部のみでなく、医療科学部（当時は衛生学部）と伴に活動しており、他職種との連携の重要性を早くから学ぶことができました。看護学科出身、現在戦略企画部でご活躍中の桑原君が暗くなるまでフッキングの練習に付き合ってくれたのを懐かしく思います。最近のトピックスとして、2人の社会人大学院生の学位が承認されました。診療、教育業務をやりながら論文をまとめるのは容易ではありません。しかし、病院スタッフ、医療科学部、総医研の先生方のお力を借りながら医学博士にふさわしい仕事ができたのは喜ばしい限りです。今後もAll Fujitaのお力を借りながら、診療、教育、研究にがんばっていきたいと思います。

ただいま、帰りました！

七栗サナトリウム
医学部　教授
（リハビリテーション医学Ⅱ）
前島 伸一郎
（医学部９回生）

平成25年4月1日付で医学部リハビリテーション医学Ⅱ（七栗サナトリウム）教授を拝命しました。就任にあたり、ご尽力いただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

私は昭和61年本学医学部を卒業後、故郷の和歌山県立医科大学附属病院で臨床研修を行いましたが、昭和63年よりわが国で5番目に開設されたばかりの本学リハビリテーション医学講座（故・土肥信之教授）に進み、平成4年大学院修了と同時にリハビリテーション科専門医となりました。この間、七栗サナトリウムを拠点として、リウマチ骨関節疾患や切断、脊髄損傷、脳卒中など多くの患者さんの主治医となりリハビリテーションの基本を勉強させていただきました。大学院卒業後は、再び地元の県立医科大学に戻り、それ以来母校を離れて早20年が経ちました。

その間、米国ワシントン州立大学、豪州シドニー大学に留学し、急性期医療へのリハビリテーション介入や、地域リハビリテーションを経験してきました。帰国後は、和歌山県立医科大学付属病院でリハビリテーション科の開設に従事し、平成16年より川崎医療福祉大学教授として、川崎医科大学附属川崎病院で臨床の傍ら、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのコメディカル育成のために教鞭をとってきました。平成19年からは埼玉医科大学国際医療センターリハビリテーション科教授・

診療科長・運営責任者として、急性期病院における臨床・研究・教育を実践してきました。
一方、藤田保健衛生大学リハビリテーション部門は土肥教授退任後も、目覚しい発展を続けています。とくに、才藤栄一・副学長および園田茂・七栗サナトリウム院長率いるリハビリテーションチームが母校の名声を飛躍的に向上させており、「藤田のリハは日本の頂点」と全国の誰しもが認めるところであります。このような状況を、私のような卒業生は、外部よりとても誇らしく思っていましたが、そんな中、母校からの「帰宅命令(…笑)」をいただき、四半世紀ぶりに、リハビリテーション医療の基本を学んだ原点である七栗サナトリウムに還ってまいりました。時の流れを感じさせない人と環境の中で、わが国最先端のリハビリテーション医療を実践していきたいと思います。また、今後は母校から多くの専門家を輩出し、世界の標準的なリハビリテーション医療を藤田保健衛生大学から発信していく所存です。更なるご指導とご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

恩師からのお便り

（順不同）

こつこつと、そして半歩前へ

藤田学園同窓会
副会長
丸田 一皓
（衛生学部衛生技術学科１回生）

平成25年３月で、藤田学園を定年退職いたしました。昭和43年(1968年)に名古屋保健衛生大学・衛生学部・衛生技術学科(現藤田保健衛生大学・医療科学部・臨床検査学科)に入学、そして昭和47年(1972年)に卒業、藤田学園に就職して以来、学生時代の4年間を含めて45年間も学園にお世話になりました。数え切れない失敗を重ね、多くの人に迷惑を掛け、多くの人に助けられた学園生活でした。本当に感謝の気持ちで一杯です。

社会では、苦しいこと、辛いこと、悲しいことばかりです。しかし、「苦あれば楽あり」の言葉の通り、こつこつと毎日を積み上げ、勇気を持って半歩前に踏み出せば、必ずや未来が開けます。大学時代の同級生や先輩と後輩、そして母校と同窓会は必ずや皆様に力を与えてくれます。様々な機会に学園を訪れ、獨創一理祈念館で心を癒やし、同窓生の繋がりをさらに強固にしていただきたいと願っております。私自身、同窓会業務を通して卒業生同士、卒業生と学園とのパイプ役としてお役に立てればと考えています。
末筆ですが、卒業生の皆様のますますのご活躍とご多幸を祈念しております。
まだまだサッカー小僧です。

心に残る言葉が励ましに

名古屋学院大学
リハビリテーション学部
教授
岡西 哲夫

名古屋保健衛生大学病院が開設(1973年)された翌年４月に理学療法士として、リハビリテーションセンターに勤務して以来、39年間在職し、本年3月に定年退職しました。
思い起こせば、多くの方々と出会い、多くのことを学びました。難関、逆境もありました。しかしそんな時、心に残る言葉が励みになりました。「一例一例を大切に」(恩師、矢部裕先生の言葉)は、臨床・研究を積み重ねる大切さを教えられ、なぜか勇気がわきました。「学生は、本当はわかっていないんだよ。花や実よりは、根や幹が大事」(リハビリテーション専門学校初代校長、土肥信之先生の言葉)は、教え方に自信を失った時、なぜか励ましてくれました。言葉

は、単なる言葉(知識)ではなく、身となって励ましてくれる言葉もあると思います。

皆さん、失敗や逆境にくじけてはいけません。逆境を克服して、本当の思いやりができるようになると思います。同窓会の皆様のご活躍を祈念致します。

藤田での13年余を振り返って、そして今後に期待するもの

藤田保健衛生大学
医学部
(産婦人科学)
名誉教授
宇田川 康博

1999年12月、慶応大学より本学産婦人科学講座教授として赴任し、13年余を経た此の4月に退任致しました。赴任時には前任の河上教授が亡くなられてから約1年が経過していたこともあり、教室員も10人余と減少し、教室のactivityも極端に下がっており、正に“零からの出発”でありました。先ず研究資金を集め、多くの学会発表、そして学位取得をと教室員の士気を鼓舞する方策を採りましたが、これは2年も続かず、私は『公開処刑人』というあだ名を頂戴して此の試みは潰えてしまいました。そこで此の失敗を糧とし方向転換を試み、『和をもって尊しとなす』の精神を教室の旗印としました。教室が前進するためには、個人個人の良いところを見いだして、それを伸ばし、集団として結束する事と心得、例え叱ったとしても、その後で必ず良い点をほめる事を実行してきました。そして産婦人科のどの領域でもチームリーダー(核)となる指導医／認定医／専門医を育てる事に重点を置いてきました。教室に入室後、若手医師はどの分野を選択しても指導者がいる体制を10年余で整えることができ、退任前には全国10大学からの出身者が集う総計33人の教室に発展させることができました。

また、13年間に亘りサッカー部の部長、顧問を務めてきましたが、部員の自主性を重んじ、不必要に介入せず、部員全員が事故や怪我する事無く、結束してクラブ活動を運営できるように育んできました。部員数も増え、西医体では銅メダルに続き、金メダルをも獲得した時は、正に望外の喜びでした。

この足掛け14年間を振り返りますと、上に就くものは厳しい管理体制や細かい規則の元に下を縛るのではなく、和をもって組織を纏め、個々人の良いところを見つけ、そこを伸ばすべく役割を担ってゆくものと思っております。

同窓会のより一層の発展を応援

北海道文教大学
人間科学部看護学科
教授
山本 澄子
(衛生学部衛生看護学科2回生)

平成25年4月から北海道で生活を始めたばかりです。北海道で最初に知ったことは冬期間の「水抜き」作業があるということでした。氷点下4度を基準として水道管破裂防止対策です。北海道ならではの地域の特徴の一つであり、新しい土地で新しいことを知り、そして私にとって新しい看護領域に挑戦しています。

私は名古屋保健衛生大学衛生学部衛生看護学科(現：藤田保健衛生大学医療科学部看護学科)を卒業し、教育で若かりし頃12年間、この3月までの3年間の計15年間、母校にお世話になりました。毎年後輩が巣立っていき、全国で活躍し、同窓会会員が増えていくことは卒業生の一人としてとてもうれしく思います。

同窓会誌名簿・13が届きました。名簿の厚さから、藤田学園全体の同窓会の重みを感じ受けました。看護学科も40年以上の歴史を重ね母校が健在で発展を遂げています。卒業生の全国でのご活躍、同窓会のより一層の充実・発展を応援しています。

藤田保健衛生大学を定年退職して思うこと

呼吸器外科
前教授
服部 良信

昭和50年4月以来38年間藤田保健衛生大学で過ごし、この3月定年しました。本当に、一所(一生)懸命、体力に任せて頑張ってやってきたという実感です。様々な事が走馬灯のように思い出されます。胸部外科では、家に帰るのは食事と寝るだけの日々が多く、患者さんの心を大切に思いながら本当にあっという間に時間が過ぎました。福慶逸郎教授、杉村修一郎教授、安藤太三教授の下で働き、様々な事を学び、包括評価(DPC)、新臨床研修医制度、病院機能評価では、大変貴重な経験をしました。医師・パラメディカル・病院関係者の方々には大変お世話になり、本当に感謝しています。病院の発展を見つめて何十メートルにもなったメタセコイヤが昨年伐採されました。今後の藤田の発展は、卒業生・在校生の双肩に掛かっていると思います。人との出会いを一期一会と思い、人と人との出会いを大切にして、一隅を照らせるように頑張ってほしいと思います。

第28回 日本脊髄外科学会会長報告

藤田保健衛生大学
脳神経外科
教授
庄田 基
（医学部３回生）

はじめに、第28回日本脊髄外科学会開催に際して多くのご支援を頂き、藤田保健衛生大学脳神経外科一同心よりお礼を申し上げます。

主題を「脊髄外科における創造力」とし、2013年6月6日および7日の会期で、第28回日本脊髄外科学会を名古屋国際会議場にて開催しました。ご発表頂いた演題は基礎関係の特別講演、教育講演、シンポジウムそして一般演題合計20題、シンポジウム4セッション27題、ランチョンセミナー6題、イブニングセミナー7題、アフタヌーンセミナー7題、ビデオセッション6題、そして一般演題300題の合計373題でした。新しく学術委員会企画シンポジウムが今回より始まり、神経再生でご高名な東北大学細胞組織学分野の出澤真理先生に多能性幹細胞（Muse細胞）についての最先端の研究講演をお願いしました。IPS細胞とは異なった研究も進んでいる事が非常に判りやすく理解できました。また、基礎研究中心の学術委員会企画シンポジウムでは、改めて臨床におけるbasic researchの大切さを再認識しました。学術委員会による最優秀賞に広島大学脳神経外科の光原宗文先生が選ばれ表彰されました。演題名は「微小重力環境で培養した骨髄間質細胞の脊髄損傷モデルへの移植効果」で将来への脊髄損傷研究の応用が期待されます。脊椎脊髄外科の臨床の発表はスタンダードの手術手技から更に踏み込んだ、創造性に富み、そして日ごろの臨床に役立つ内容の発表が多く認められました。ランチョンセミナーは私が長年に渡り取り組んできた腰椎固定術を中心に企画しました。浜松医科大学の松山幸弘先生に「成人脊椎変形症の概念と治療ストラテジー」、北海道大学の伊東学先生に「骨粗鬆症性脊椎骨折に関する外科的治療の進歩と課題」、慶応大学の松本守雄先生に「椎弓根screwによる脊椎instrumentation手術の有用性とピットフォール」、日本大学の前島貞裕先生に「脊髄由来の疼痛」について、さらに札幌麻布脳神経外科病院の矢野俊介先生に「脊髄障害性難治性疼痛に対する脊髄刺激療法」で疼痛に対する治療法を講演していただきました。SingaporeのGabriel Ka Po Liu先生には現在のトピックスであるMinimally Invasive Spine Surgeryの講演をしていただきました。いずれのご発表もこれからの脊椎、特に腰椎のinstrumentationに役に立つ講演でありました。イブニングセミナー、アフタヌーンセミナーでは元和歌山県立医大脳神経外科、いまえクリニック院長の今栄信治先生にMEDを、藤田保健衛生大学整形外科の志津直行先生にCortical Bone Trajectory手術、秋田大学脳神経外科の菅原卓先生に頸椎前方固定術を、大阪市立大学脳神経外科の高見俊宏先生に脊髄腫瘍、北海道大学脳神経外科の飛騨一利先生に難しい脊髄動静脈瘻の手術を講演していただきました。脊髄外科を担当する脳神経外科医にとって大変参考になったと思います。今回新しく企画した、脊髄外科Breakthroughのセッションは、脳神経外科医が脊椎脊髄疾患に係わっていくきっかけとなったポイントの講演を中堅の先生方にお願いしました。獨協医科大学の川本俊樹先生に頸椎変性疾患を、冨永病院の乾敏彦先生に腰椎変性疾患を、藤枝平成記念病院の高橋敏行先生に脊髄腫瘍の手術を、綾部ルネス病院の深谷賢治先生に腰椎instrumentation 特にMIS-TLIFを、そして愛知医科大学の安田宗義先生に海外留学の大切さについてご自身のbreakthroughのきっかけを話していただきました。大変難しいお願いでしたが、若い先生だけでなく、日頃の臨床で学会発表の陰の苦労が判り、若い時の情熱をうまく燃焼させるきっかけをつかんで頂けたと思います。私は20年に渡りインドを中心とした東南アジアの脊髄外科医と交流してきました。多くの先生方をお呼びしたかったのですが限りもあり、インドのRamani先生、Patkar先生、韓国のSuh先生、Kim先生をお呼びしAsia nowのセッションでお話を頂きました。やはりどの国も若手ががんばってきています。Patkar先生のC-V junction手術、Kim先生のnotochodal cellに関する研究など独創的な発表でした。今後も更なる交流とお互いの切磋琢磨でAsia主導のspinal surgeryの発展を期待しています。

脊髄外科に対する思いと多くの内容をこの2日間に詰め込みました。少しタイトであったかと思いますが今後の研究と臨床に役立てていただける学会が企画できたと考えております。ご支援いただいた先生方に重ねてお礼申し上げます。

藤田保健衛生大学　脳神経外科スタッフ

第28回 日本義肢装具学会学術大会を終えて

医療科学部
リハビリテーション学科
講師
大塚 圭
（リハビリテーション専門学校4回生）

第28回日本義肢装具学会学術大会が、去る平成24年11月10日～11日に名古屋国際会議場で開催され、私は事務局長として大会の準備、運営に携わらせて頂きました。大会は、才藤栄一大会長のもと、リハビリテーション部門（藤田保健衛生大学医学部リハビリテーション医学Ⅰ講座・Ⅱ講座、藤田保健衛生大学病院リハビリテーション部、坂文種報徳會病院リハビリテーション部、七栗サナトリウムリハビリテーション部、藤田記念七栗研究所リハビリテーション研究部門、医療科学部リハビリテーション学科）の全面的なご協力と藤田学園同窓会の協賛を頂くことができ、おかげさまで2,000名を超える方々に参加頂き、盛会裏に終えることができました。参加者数は過去の記録を大きく塗り替える結果となりました。

本大会は、テーマとして「システムとしての義肢装具・支援機器」を掲げ、従来の義肢装具の枠を超えて、ロボットなどテクノロジーの進歩によって生まれた支援機器まで含め、本学会の領域を拡大させました。

特別講演と教育講演では、海外研究者を含めた5名の講師をお招きし、義肢装具からロボットにわたる興味深いテーマを講演頂き、大変好評でした。シンポジウムは先端的テーマとして「動く支援機器」を、パネルディスカッションは実践的テーマとして「ブレースクリニック」を取り上げ、それぞれ経験豊かな第一線の先生方に議論頂きました。

また、これまでの大会に無い新たな試みとして「ステート オブ ザ クラフト」と「ミート ザ メンター」を開催しました。長下肢装具製作コンペティションの「ステート オブ ザ クラフト」は、3名の義肢装具士に匠の技を披露頂き、会場は多いに湧き上がりました。「ミート ザ メンター」は、優れた先人の経験を間近に触れてもらうため、9つのセッションを設けました。全ての会場は立見者で溢れ、若い参加者はメンターの話に食い入るように耳を傾けていました。

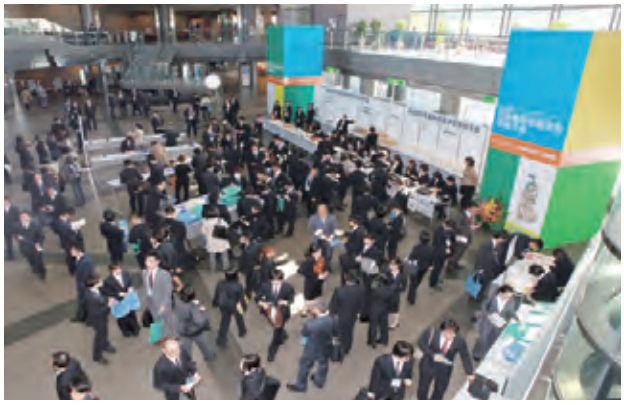
会長講演では、大会長が「自由度を巡って」と題して、麻痺疾患に対する装具の基本機能と自由度制約について講演され、大会メイン会場は、ほぼ満席となり大盛況でした。

展示は大会の目玉企画として、特に注力致しました。参加者の方々に義肢や装具の最新技術の枠に十分触れて頂けるよう、55社の企業に出展頂き、スペースをとり、レイアウトを工夫しました。トヨタの新しいロボットをはじめ、興味深い展示品の周りには常に大勢の参加者が集まり、熱気が溢れていました。

一般演題は、過去最高の206演題となり、各会場では熱く活発な議論が交わされていました。

大会当日は、リハ部門のスタッフに加え、医療科学部リハ学科の学生が運営スタッフとして活躍してくれました。参加者からも「藤田の学生は礼儀正しく、とても優秀ですね」との声を多く頂きました。

この大会の成功は、藤田保健衛生大学のリハ部門、藤田学園同窓会、また大会に携わって頂きました関係者皆様のご指導、ご支援の賜物であると思っております。ここに大会の成功をご報告申し上げるとともに、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。



日本看護技術学会 第12回学術集会開催報告

「美しく看護るための心・技・体 ―看護技術の真価／進化をめざして―」

会長
聖隷クリストファー大学
看護学部　教授
渡邉 順子
（衛生学部衛生看護学科第6回生）

この度、藤田学園同窓会のご支援のもと、静岡県浜松市において日本看護技術学会第12回学術集会を初めて開催し成功裡におさめることができました。心より感謝いたします。

以下に学会概要をご報告させていただきます。

2013年9月14日（土）・15日（日）に、アクトシティ浜松・コングレスセンターにおきまして、キーセッション5題、ワークショップ5題、ランチョンセミナー1題、交流セッション9題、一般演題総数103題からなる盛大な学術集会を開催することができました。参加者総数は780人でした。

本学会は、「看護技術」：Nursing Art & Science の進化発展をめざしております。単に手先のテクニカルなことだけではなく、目に見えない「看護（の技）」がどのように人々の病を回復させ元気にするかを追求しています。

この度、初めて浜松で学術集会を開催するにあたり、〈看護は美しいもの〉であることを強調したいと考えました。美しさには計算尽くされた強さがあり、世の中では「技」として評価されていることが多いと思います。美しい技には人々を幸せにする力があります。美しい技をもつナースにはより美しい心と体が求められるでしょう。

そこで第12回学術集会のメインテーマを、「美しく看護る（みまもる）ための心技体～技術の真価／進化をめざして～」としました。

特別講演として、日本古来の伝統芸能のひとつである「能楽」の第一人者で「梅若会」の角当行雄氏とご子息の角当直隆氏のご協力を得て、能楽独自の美の世界観についてご講演いただきました。能学独自の美の世界観と看護の接点を心ゆくまで堪能できました。

また、この度、（株）資生堂さまのご協力を得て、「化粧」技術の実際を企画しました。女性に限らず男性の関心も高まりつつある「化粧」は、美の追求と皮膚科学が織りなす「技」の極致であり、「化粧」には深い歴史があること、そして、進化発達がめざましい分野でもあり、美の追究だけでなく「化粧」技術が心と体に与える力強さを実体験できました。

教育講演として、現在、名古屋市東部を活動拠点とする若き医師集団の代表舩木良真先生をお招きし、60カ所の訪問看護ステーションとの連携により新しい都市型在宅医療モデルを提唱し、医療と看護の連携技術の醍醐味をご講演していただきました。

パネル徹底討論として、川嶋みどり先生と労働経済ジャーナリストの小林美希氏、そして聖隷三方原病院総看護部長の吉村浩美氏により「病院看護の真価と進化」のテーマのもと、病院看護の真価は何か、どの方向に向かって進化すべきかを討議していただき、会場との白熱した討論が充実していました。

外見的な美しさに惑わされることのない「内面的」な美しい心技体が「看護」をどのように変化させるか、心ゆくまで語り合えた学会と思います。

懸念された「台風18号」は、学会が終了した夜半に浜松市に上陸したため、まさに大過なく無事に過ごすことができました。深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

創立50周年に向けて ～獨創一理ワークショップ～

目　的

学校法人藤田学園が平成26年10月10日に創立50周年を迎えるに当たり、同窓会では学園創立50周年を祝い、母校への感謝の気持ちを込めて記念誌の発刊、会員名簿の発刊、記念講演・記念パーティーの開催など様々な記念事業を企画する。

ついては、記念事業プロジェクト委員をはじめ各学部学校の同窓生が一堂に会し、このワークショップをもって50周年同窓会記念事業のスタートとする。

また、今後の同窓会のあり方についても考察する。

日　時：平成25年7月6日(土)16：00
　　～7月7日(日)16：00

場　所：グリーンホテル三ヶ根
　　〒444-0701 西尾市東幡豆町入会山1-287
　　Tel：0563-62-4111

参加者：看専：東本美、長田泰子
　　短大：長谷川勝俊、坂田裕介
　　専学：沖田洋治、引地睦悦、民谷正光
　　医療科学部：丸田一皓、原田真澄、浅田恭生、西井一宏、中村小百合、村田幸則、堀場文彰、南一幸、小林謙一、夏目貴弘、別府秀彦、久納智子、潰子二治、前野芳正、中上寧、新里昌功、福本由美子、白川誠士
　　医学部：近松均、松井俊和、内藤健晴、坂野哲哉
　　カズモス：兼田道男、松本敏明
　　リハ専：山田将之、横田元実
　　参与：佐々木航城、滝田毅、松岡透
　　（順不同）

主　催：藤田学園同窓会

世話人：近松均、松井俊和、丸田一皓、村田幸則

藤田学園同窓会　獨創一理ワークショップ スケジュール

7月6日

	プリナリー	グループワーク	巡検	丸岡	鈴井	村岡
15:00			会場設営			
:15						
:30						
:45	受付			受付係		
16:00						
:15						
:30	開会式		挨拶		WSとは	
:45	50周年に向けて		16:50まで			
17:00	オリエンテーション			説明		
:15	各グループの役割					
:30		アイスブレーク			説明	
:45		今求められている医療人の資質				
18:00		各グループ 上位3つ挙げる				
:15	発表				司会	
:30	6グループ 発表時間5分 質疑なし					
:45	同窓会アンケート中間報告					発表
19:00	移動					
:15			挨拶			
:30	夕食		乾杯(指名)			
:45						
20:00	近況報告					
:15	情報交換会					
:30						
:45		テーマごとの		説明		
21:00		部屋に分かれて				
:15		50周年に向け行うこと				
:30						
:45		次の日の朝　発表				
22:00						
:15						
:30						
:45						

7月7日

	プリナリー	グループワーク	巡検	丸岡	鈴井	村岡
8:00	朝食					
:15						
:30						
:45						
9:00	2日目のガイダンス				説明	
:15	発表6グループ/部屋毎					
:30	発表時間2分 質疑なし					
:45		セクション別討議		説明		
10:00		座談会のベースを作る				
:15		キックオフ				
:30						
:45						
11:00	中間発表			司会		
:15						
:30	6グループ 発表時間5分 質疑2分					
:45	昼食					
12:00						
:15						
:30		グループ討議1	挨拶		KJ法の説明	
:45		藤田学園　次ステップ				
13:00		6グループ				
:15		KJ法				
:30	発表				司会	
:45	6グループ 発表時間5分 質疑2分					
14:00						
:15		グループ討議2			説明	
:30		同窓としてできること				
:45		同窓会の在るべき姿				
15:00						
:15	発表				司会	
:30	6グループ 発表時間5分 質疑1分					
:45	閉会式		総評			
16:00	かたずけ					
:15						

第一回 獨創一理ワークショップ 会長挨拶

藤田学園同窓会会長　近松　均

皆さんこんにちは。本日はご多忙中にもかかわらず第一回獨創一理ワークショップにご参加くださいまして有難うございます。ワークショップの開始に先立ち、一言ご挨拶申し上げます。

1．母校と卒業生

大学などの教育機関にとりまして卒業生とは、自らの姿が映し出される鏡であると同時に、唯一無二の貴重な資産です。学校の価値は施設の良し悪しでなく、そこで教育を施し、世に送りだした卒業生がいかに活躍をするかではかられます。特に私学においては、他校にはない独自の建学の精神と教育理念があり、それに基づいて育てられた個性的で有能な人材こそ、母校の発展のために中心的役割を果たす適任者となります。もし、卒業生の多くが卒業して月日の流れとともに母校と疎遠になり、やがては殆ど交流がなくなってしまうのであれば、学校としては貴重な資産の流出ということとなり、大変もったいない話です。

一方、卒業生にとりまして母校とは、在学中の成長に大きく影響を及ぼす教育的環境であると同時に、卒業した後も一生にわたり深くかかわってくる存在です。どこの世界にも、人を見ずに出身学校で個人の力量を推し量ろうとする風習が見られます。このように母校と卒業生の間には切っても切れない関係があり、まさに両者は共存共栄の間柄といえましょう。藤田学園の発展なしには私たち卒業生の評価の向上はありませんし、その逆もまた真なりです。

藤田学園の卒業生として高い資産価値を持つ努力を今私たちがすることは､私たちの世代のみならず将来、藤田学園の同窓生となる後進のためにも重要と考えています。

2．同窓会の意義

同窓会のあり方について、私なりの考えかたを述べます。藤田学園同窓会においては、年齢や肩書などに関係なく卒業生は皆平等であり、各々が自由な立場で気兼ねなくのびのびと発言のできる集まりでありたいと思っています。また、同窓会活動は決して他から強制されて参加するものではありません。先輩の後輩へ対する根拠のない優先関係や上司から部下への上意下達的な関係は存在させるべきではなく、職能団体や同門会にありがちな体制とはこの点で一線を画すことに、同窓会としてのアイデンティティが存在すると考えています。

このような世代や職種の障壁を越えての交流や親睦を可能にするには、まずは同窓会に多くの方に興味を持っていただき、積極的に参加していただくことが第一歩となります。そして、徐々に会員間の相互理解が深まっていけば、助け合いの意識が発揚され互助会的運動が活発となり、やがては会員一人ひとりの利益につながります。さらに、いずれは母校や在学生を強力に支援できるような立派な組織に成長し、藤田学園と卒業生との理想的な関係が築かれることを願っています。

3．同窓会の運営姿勢

一般的に、卒業して間もない頃は社会人として一人前になるために、目の前に山積みされた課題をただこなすだけで精一杯の毎日でしょう。成長して職場でまわりから認められるようになるまで並大抵の努力では済みませんし、本人のみならずご家族の方までいろいろと犠牲を払わなくてはなりません。こうした時期には、母校や同窓生のことまで考えが及ばないのがむしろ普通です。また、人生の正念場にさしかかった時期には、これまで行っていた同窓会活動を一時中断しなければならないこともあると思います。したがって、同窓会活動への参加は、卒業生の皆さん一人ひとりの自主性にお任せするのが適切と考えています。

しかしながら、卒業10年たって私が同窓会活動に興味を持ち始めたときに、先達の皆さんにそうしていただいたのと同様に、もし新たに積極的な参加を希望される方がいらっしゃいましたら、いつでも暖かくお迎えしたいと思っています。

4．母校設立50周年にあたって

―先人の功績に感謝するとともに、後進にはさらに素晴らしい環境をと願う―

来年は藤田学園にとって創立50周年の節目の年にあたります。1964年10月の南愛知准看護学校の開校から始まり、その後わずか40数年の間に国内有数の医療系総合学園にまで成長した今日の母校の発展ぶりを見ますと、卒業生の一人としてたいへん嬉しい限りです。看護師、臨床検査技師、医師らの国家試験合格率は全国トップクラスを誇り、広大な豊明キャンパスを見わたせば大学病院を核とした近代都市国家を形成したかのごとくです。また、坂文種報徳會病院と七栗サナトリウムはそれぞれの特色を生かし、地域医療において圧倒的な存在感を示しています。さらに研究面においても各方面から高い評価をいただいています。いま、私たち卒業生はこのような母校の盛栄ぶりを当事者として享受したり、あるいは学外にあってはその様子を見聞きして誇りを感じています。ここに50周年の節目の年を迎えるにあたり、創設期から今日に至るまで藤田学園の発展に尽力されてこられた方々に、心より感謝の気持ちを捧げる次第です。

一方、私たちにとって先人の偉業をたたえ功績に感謝することと同様に大切なのが、過去を考察して未来を占うことであり、次世代のためにアクションを起こすことではないでしょうか。今日の発展ぶりに決して満足することなく、後進には今の私たち以上に整備された環境を残してあげなければなりません。

折しも母校では創立50周年をひかえ、藤田学園の継続的発展計画ともいえる「創立50周年に向けてのグランドデザイン」が佳境を迎えています。グランドデザイン完遂のために、七つの学部･学校の卒業生全員の力を一つに結集したいと、私は強く思います。私たちが藤田学園あげての一大事業に参加することで、母校の医療施設が充実し、後進の学習環境が向上し、教職員の方々の職場環境が整うだけでなく、同窓会も力をつけることができると信じています。

5．『藤田学園創立50周年同窓会記念事業』の計画

―“藤田学園創立50周年感謝の集い”の開催と、記念誌“Our Voices”の発刊―

私たちは、立派な医療従事者となる志を胸に藤田学園に入学し、そこで一生の恩師、友人らと出会いました。友と将来の夢を語り合い、勉学や課外活動に勤しんだ学生時代に思いを巡らせば、出会いやご縁の不思議さを感じると同時に、深い感慨を覚えます。

藤田学園同窓会では、このたびの節目の年にあたり、2014年10月11日土曜日に“藤田学園創立50周年感謝の集い”を開催します。藤田学園のすべての学部・学校の卒業生の皆さんには旧交を温めていただくとともに、運命の出会いに改めて感謝を捧げる機会として、ぜひご参加いただき、“藤田学園創立50周年感謝の集い”を盛り立てていただければ幸いです。

また、「未来が明るく幸せなものでありたい」これは、この世に暮らすすべての人々に共通の願いです。もちろん、未来を正確に予測することなど誰にもできません。しかし、自分自身や子孫の幸せな未来のために、今のうちに何をしておけば良いのかしっかり考えて、それを実行に移すことなら可能です。そして、今するべき事を判断するための大事な情報は、過去の史実や資料の中に隠されています。

私は、母校創立50周年の節目の機会に、母校と一緒に発展の道を歩んだ卒業生の視点で、この半世紀を総括するとともに、母校と卒業生の関わりにおける重要な史実や資料を、後生のために書物（記念誌）として編集しておくことが、同窓会の責務と考えています。また、この記念誌には、卒業生の皆さんから一言メッセージを投稿していただき、母校への一言、恩師・友人・知人・後進への一言、近況報告、随筆・小論、雑感など、多くの卒業生の「生の声」を掲載し、記録にとどめておきたいと思います。記念誌は“Our Voices”というタイトルで、2014年秋には編集を完了し、同年度内に卒業生の皆さん全員のお手元にお届けするよう計画しています。

最後に、本日お集まりの皆さんに『藤田学園創立50周年同窓会記念事業』へのご協力をお願いいたしまして、簡単ですが第一回獨創一理ワークショップ開会のご挨拶といたします。有り難うございました。

今求められている医療人の資質

藤田学園が設立され50年を迎えます。設立時と現在では、医療人を取り巻く環境、社会の医療に対する考え方も大きく変わってきています。超高齢化社会を迎え、病院・医院だけでは医療は対応しきれなくなっています。またチーム医療の考え方もしっかりと取り入れないと十分患者さんをケアできなくなってきています。医学部では臨床実習を参加型にして2年間しっかりと行うことが求められています。これは医療も国際化が進み、そのカリキュラムも国際標準に合わせるためのものです。

藤田学園卒業生が考える「今、求められている医療人の資質」は

1位：コミュニケーション能力
2位：共感する心（思いやり、優しさ）
3位：品位（社会人としての常識力）
4位：プロフェッショナリズム（医療人としての規範）
5位：生涯学習（向上心）
国際感覚
医療人としての能力（知識・技能）
誠実さ
患者中心主義
チーム医療（協調性、マネジメント能力、リーダーシップ）などが挙げられた。

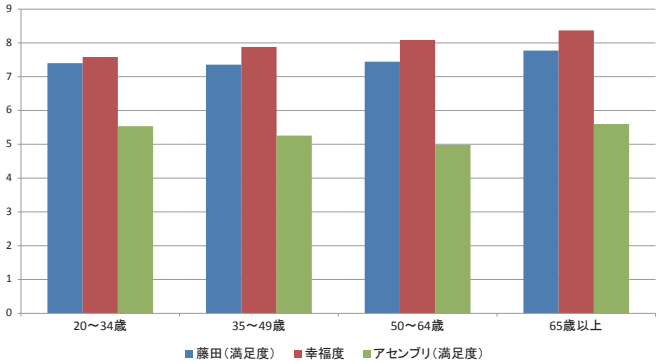
同窓会アンケート　中間報告

同窓会では創立50周年にあたり、社会で活躍している卒業生が母校や現在働いている環境をどのように思っているか、平成24年12月にアンケート調査を行いました。卒業生全員約25,000名にアンケートを発送しました。2,558名から回答を得ました。これは全体の約10％にあたります。今回はその中間報告を行います。

・「藤田学園を卒業したことへの満足度」
・「現在の状況の幸福度」
・「アセンブリを行ったことへの満足度」
を10点満点で答えてもらいました。

卒業生の藤田学園を卒業したことに対する満足度、現在の状況の幸福度が非常に高いのは、大学時代には気づかなかったことかもしれませんが、藤田の「実学教育」がいかに優れていたか物語っています。アセンブリは平均点5点以上ありますが50周年以降社会のニーズ、学生のニーズに合わせさらに検討する必要がありそうです。

満足度と幸福度



50周年に向けた討論

【記念誌】
50周年記念誌は30周年誌、40周年誌などを踏まえて作成されるのが良い。
【記念講演会】
メインの人1時間分野を決めて候補者を選ぶ。HPを利用して探しては。
同窓生自薦、他薦を問わない。
過去の関係リストを作成する。
【一言メッセージ】
一人でも多く、2500人ほど。HPで募集中、年末のあけぼの杉に送信シート　を同封する。表は記念誌の絵とする。受信専用のアドレスを作る。参加者は積　極的に、本日の帰りに提出する。
【座談会】
メール会議で、詰める。
【学内散策】
学園内の歴史との内容の食い違いをなくす。
学園は平成27年に作成する。同窓会誌は時期が早い。
【年表】
どのような年表にするか。学園、同窓会、各部会の年表
【記念パーティー】
どのように人を集めるか。ダイレクトメール、各病院のキーマンに連絡する。
学内の人に呼び掛けてもらう。何をやるのか

セクション別討議

セクション名：『獨創一理祈念館』
・獨創一理祈念館の設立について会談
「同窓会が祈念館設立に至った経緯」
博物館ではない方向でお願いした
歴史会館になっていった経緯
藤田啓介記念館にしなかった経緯
6つの言霊の経緯
・獨創一理祈念館の座談会を開催
獨創一理祈念館の座談会の内容を紙面にも掲載
座長：近松、担当者：内藤(健)、別府、濵子
・座談会の項目
①設立経緯：別府
②準備から設立まで：施設部辻岡、竹中工務店、乃村工芸、近松、丸田、別府、安江
③完成から現況まで：丸田
④今後の運営：内藤(健)、濵子、久保田、他に40歳未満の同窓生5名程度
・歴代理事長、歴代学長の内容を入れる
・今後作成のビジュアルを流す
・見学しやすい環境造り
・閉校した学校の歴史を残す

セクション名：『学園行事』
1．準備
・“学園行事”ではなくインパクトのあるタイトルを考える。
→学園イベント～青春の1ページ
→連帯への呼応(第13回体育祭)
→受動から能動へ今、踏みしめる第一歩(第22回学園祭)
→響く青春の鼓動(第20回体育祭)
→全うせん若き命一息霊(いきち)―(第21回体育祭)
・行事の歴史を調査する。←パンフレットなどの資料を収集することが必要！
私立大学我を造りき、あけぼの杉を調査
・パンフレットから、関わった人をピックアップし、原稿を依頼する。
2．内容
・それぞれの行事の、もともとの意図(アセンブリの一環として)
・行事の年表
・各年の行事の内容(主なもの)
・個人からのエピソード(原稿)

セクション名：『社会貢献』
・どんな社会貢献があるのか？調査する必要がある。
・今後、同窓会として社会貢献をするなら、何をするか？決めていく。
・報道関係の調査項目を同窓会として受けて、同窓生に紹介する。(社会貢献？)
・どんな調査をするのか？
・アンケート調査、調査項目を厳選する必要あり。
・主要な人に調べてもらう。
・学会などにヒアリングする。
・各地域で同窓生が行う行事(市民公開講座など)に援助することは社会貢献か。
・地域医療の啓蒙等をしているかを調査をする。
・災害等のボランティアなど個人？ 団体？ 同窓会がどうかかわっているか？
・へき地医療に積極的に行った人などを調べる必要がある。
・災害時に駆け付けた人(業務としていない)
・地区の消防団や地域の役員活動。
・今の同窓会では、社会貢献は難しいのでは？
→基盤が重要である。専属スタッフが必要である。

セクション名：『同窓会』
1．出席者：歴代の同窓会長、副会長は必須
2．内容
・昭和55年10月10日に同窓会が発足した背景（各学部・学校が統合した背景）
・初代会長は総長であること
・設立前の各部会の活動
・同窓会が法人化した経緯
・同窓会の活動、支援活動（いこいの広場コンサートなど）の内容
・「あけぼの杉」発刊の経緯
・名簿
・同窓会館、獨創一理祈念館
・奨学金
・今後のあるべき姿
①50周年を機に卒後教育への取り組み（学校単位ではなく職種ごとの部会）
②SNS（facebookなど）を利用して、誰もが情報発信できる仕組みづくり

セクション名：『国家試験対策』
・藤田学園は国家試験対策はかなり手厚く行っている。
・医学部では指導講師会（卒業生が中心となって）による対策を行った。今はない。
・医療科学部では入門書と呼ばれる国家試験対策書を作成し、活用している学科もある。
・時代によって国家試験の指導の仕方が異なっている。
・手厚い指導の弊害として受け身になる学生が多い。
・以前はバス停に試験成績を貼り出していた。座席も成績順で決められていた時期があった。
・どの程度、出席できる人を集められるかは不透明なので、アンケートや個別のインタビューを座談会形式にまとめてはどうか？
・私立大学われを創りきの過去の記事などから国家試験対策に関するものを参考にする。

セクション名：『クラブ活動』
・すべてのクラブは取り上げられない
例えば連帯太鼓、創設期を知っている方々にお話し頂く別府先生・金子先生、川井先生
・体育系：北里戦、医歯薬、西医体の結果とエピソード
原稿依頼クラブ活動（今昔）
①創設期（連帯太鼓・ラグビー・バドミントン…）
②長期継続的活動しているクラブの中から
③現在の活動クラブ（研修医に依頼）
※全学的な活動をしているクラブが望ましい
※内容は，個人に当時のエピソード・思い出
・紙面座談会形式か？
原稿を依頼→座談会形式に編集することが可能
時代によってクラブの構成に違いがある
当時のクラブ名を調べる・学友会の記録・学園祭のパンフは？
学園では保存していないか？→七栗、個人→その中からいくつかピックアップ
・運動系：試合成績などを掲載
・文科系、学術系は？
・アセンブリ活動は含まれるか？

藤田学園　次のステップ

ビジョンを明らかにする→社会へのアピール向上、全国区にする
・多職種連携：チーム医療の推進・強化
・交流：国際交流、人事（病院、全学）交流
・地域：地域基盤教育、地域医療、ボランティアの充実
・人材育成（学生）：心の育成、優秀な人材の育成、豊かな人間性の形成
・研究：研究拠点、研究テーマをしぼる
・医療：先進的医療をできる人の育成
・特徴ある教育：藤田でしかできない教育、次世代アセンブリ
・教職員の教育：卒業生の地位向上、生涯教育
・歴史を保存
・国試の高いレベルは必要
・理念：総長の教えの伝承
・学生募集：学費の見直し
・職員教育：FDとSDの充実
・卒後教育：卒業生への生涯教育
・環境整備：キャンパスの再配置
・国際化：他国との連携強化
・地域連携：周辺大学との連携強化
・施設整備：建て替え、設備の充実、教育設備の充実、新しい機器の導入、駐車場の増設、各学部施設の建て替え、中川・七栗校地の活性化、傘をささなくてよい駐車場
・環境整備：アメニティの充実、アメニティの整備、アメニティをよくするために大学病院の建て替え、図書館の拡大、メタセコイヤの植樹
・アクセスの向上：大学へのアクセスの充実、アクセスの充実、地下鉄をキャンパス内へ
・教育：優秀な学生の確保、藤田総長流の教育実践、教員の資質の向上、教員スキルの向上、学部の増設、学部の整備として2学部から3学部へ、福祉系、栄養系学部を創る
・地域との連携：地域連携、産学連携、地域医療との連携、協力病院の充実、病診連携
・医療体制：チーム医療
・経営：資金力up、経営の安定、執行部の頑張り、
・同窓会の役割：卒業生の重要ポストへの登用、１回生1名の同窓会役員を決める、次の10年に向けてワークショップを行う、奨学金の考案
・同窓生役割、希望は、地域医療貢献をするためにすべてに関わって、さらなる向上に繋げる
・地域医療への貢献：社会の要望、高齢化社会、地域との連携が社会貢献となる
・人材確報：優秀な受験生、学生の確保の必要性

・先進、高度医療の必要性
・環境整備:教育環境等のハード・ソフト面の充実、駐車場増設、防災の強化
・教育、資質の強化
・人的交流の強化
・国際交流の促進
・国際化を前提とした学園づくり
・学生に対する教育
・校舎、駐車場等のハード
・教職員の環境
・卒後教育
・学園のポリシー等のソフト
・患者と学生、他職種との交流のある医療

私たちは“藤田学園次のステップ”をふまえた話し合いの中で、“同窓会としてできることは以下のことであると考えました。

・あきらめないこと、活動し続けること
・活動するための足掛かりとしての本部整備が必要
・PR方法は考えましょう

【在学生に対して】
・学生(課外)活動への援助
・資金面で支援(財政支援)→学園としては出せない所へ(教育活動への積極的な支援)

【卒業生に対して】
・卒後教育
・卒業生間の連携仲介、卒業生のネットワーク作り
・同窓会主催の生涯教育イベント(多業種間の交流)

【地域(一般社会)に対して】
・七栗校地を利用した交流
・地域との連携
①人材育成
・卒後教育の仲介(学会、研修会活動の援助)
・卒業生の講義への参加(講師、模擬患者など)
②経済面、環境面
・金銭面の援助(奨学金、クラス会)
・環境整備への貢献
③国際化
・国際交流、海外研修支援
④地域交流、連携、同窓生交流
・学園祭でホームカミングデイの実施
・ネットワーク作り
・学園祭でのブース出展
⑤その他
・同窓会としての学園側へのアピール
・在校生、新入生へのアピール

1．会員サービス
・名簿作成(卒後数十年経過したときに再開するためには必要)
・クラス会の開催の援助、支部会の設立援助
・卒業生の学会開催援助
・地域ごとの支部長やクラス代表の充実

2．学生支援
・奨学金の貸与
・入学記念品の贈呈
・卒業記念品の贈呈(医療科学部のみ)
・模擬患者
・アセンブリ班活動の指導

3．母校への協力
・寄付
・学園事業への協力

4．今後の活動
・シルバー世代の活用(先人の知恵と力を借りる)
・学生会員との交流(積極的に同窓会に参加する人材確保)

“藤田学園次のステップ”の討論をもとに、“同窓会としてあるべき姿”

私たちは“藤田学園次のステップ”をふまえた話し合いの中で、“同窓会としてあるべき姿”は以下のことであると考えました。

・ポリシー：多職種が仲良く活動すること(S.55年総長が言われた)。
アセンブリ精神
・同窓会のあるべき姿
①卒業生が興味をもって参集できる企画立案
・職種別部会活動→卒後教育活動に有益に機能する(学術)。
・県人会活動→同窓会館および地方で開催でも(懇親)。
②法人化(社会的に認められる組織となるために必要)
③奨学金制度の継続
④国際化→留学等の支援(海外在住の卒業生の紹介など)
⑤病診連携(3病院)への組織的協力が必要であり、同窓会が協力する
⑥地域要望への医療貢献(町内会活動への貢献)
・課題：今後、事務量が増大する(事務専任者が必要かも)
・その他：藤田学園同窓会が医療分野で力をつけて、多方面に協力する
・同窓会の組織化：支部会の充実したうえの全体同窓会に運営
・同窓会の活性化
・全年齢に渡りアピール
・役員の世代交代
・奨学金等の実績、就職支援、国際交流の支援
・職種別の同窓会の集い
・情報を伝える手段、あけぼの杉の電子版

同窓会を開催して（順不同）

医学部第27回生 卒後10周年記念同窓会

卒業後10周年に
33名が愛知に集合!!

日時：平成25年8月3日　場所：ホテルサンルートプラザ名古屋　参加者：33名

2013年8月3日（土）にホテルサンルートプラザ名古屋において、同窓会を開催しました。今年は卒後10年目にあたる節目の年であり、少し前から同窓会ができればいいねという声を頂いていましたので、思い出の地、愛知県で同窓会を開催することができてとても良かったと思っています。当日は忙しい中、中部圏以外からも福岡、広島、愛媛、東京、新潟など遠方の人を含め、33名の皆さんに参加していただきました。

卒業以来という人もいて、非常に懐かしい顔ぶれが揃い、思い出話に花が咲きました。会の中では一人ずつ壇上で近況を報告していただきました。それぞれの道を歩んでいる同期に非常に刺激を受けました。10年も経っているのにほとんど変わらない印象がありました。皆さんがそれだけ充実した日々を送っているのだということが感じ取れました。

参加した皆さんからは好評をいただきましたので、今後も会を開いていけたらと思っています。

最後に、同じ時期を過ごしてきた同期はやっぱりいいものだなと実感しました。　（文責：椎野）

壇上での近況報告（マイクを握るのは小野君）

著者（左）と長島君（右）

短大衛生技術科6回生 卒後40年同窓会

北海道から宮崎まで、
40年ぶりの同窓会!!
ネットに掲載！

日時：平成25年6月15日　場所：サイプレスガーデンホテル　参加者：84名

1973年3月卒業後40年ぶりとなる初めての6回生同窓会が、6月15日に名古屋金山駅のサイプレスガーデンホテルで開催された。発端は短大閉校式に参集した21名の有志が空白のタイムスリップを経験。露木俊裕君と酒井縁君が発起人幹事となり準備開始。当初は中部地区同窓生に案内したが、口込みの連絡で北海道から宮崎県まで参加者が増大し総勢84名の参加（6回生は227名）。当日開始1時間前に神田（森本）和子・中井（田中）あい子幹事ら数名の受付＆写真部隊が配布物（写真入名札・藤田学園パンフレット・名簿・プログラム・アンケート用紙・谷口賢司氏作ぐいのみ陶器）を机に用意。11時20分位から見知らぬ顔ぶれが受付に殺到。「誰？誰？？」、「えー○○さん！　懐かしい！！」と40年の時空を越えた驚嘆と喜びの輪。12時過ぎより荒川秀夫幹事の司会で開会。露木俊裕代表幹事が参加協力の御礼ならびに挨拶の後、3名の物故者を紹介し黙祷を捧げた。小林（木村）圭二幹事の乾杯にて宴は開宴。食事の時間を利用し1～10班毎にマイクで自己紹介＆写真撮影（学生時と現在の比較写真用）。14時からのティータイムは、懐かしい再会の喜びと情報交換で大盛況。予定の4時間はあっという間に過ぎ山岸宏江幹事による閉会の挨拶でお開き。感想として女性8割は顔が解らないこと。男性は頭が少し変貌。短大は閉校しましたが、今後も同窓会を継続開催して、短大卒業生として末長くお付き合いしていきたい。

尚、インターネットに　エスエル露木　で、参加者84名の昔と今の比較と当日の写真が掲載されていますので是非見て下さい。

衛生学部衛生技術学科4回生 同窓会

第6回同窓会開催!!
旧交を深めた2日間

日時：平成25年9月14日　場所：名古屋　参加者：25名

今年9月14日午後6時から、衛生技術学科4回生の第6回同窓会がJR名古屋駅西口近くの料理旅館において泊まり込みで行われ、全国から25名の参加があった。冒頭、今回の幹事、小塚諭君から挨拶があり、平成20年に亡くなった川崎富美子(旧姓 高橋)さんの「お別れ会」の様子がスライドで紹介され、次いで一同で黙祷を捧げた(のちほど夫の川崎行晴君から謝意があった)。

会食では冒頭、久しぶりに参加した長崎の東根秀明君が乾杯の音頭を取り、賑やかに懇親会が始まった。盛り沢山の名古屋名物料理を堪能して一息ついたところで、個々に近況を話してもらうことになった。我がクラスの多くは昨年から今年春にかけて還暦を迎えたこともあり、総じて男性陣は定年前後の人生の黄昏を感じさせる内容が多かったが、女性陣は親の介護や孫の面倒見など現実のなかでまだまだ惚けるわけにはいかない内容の話が多かった。また東京と横浜から来た女性からは、あの3・11の地震に直面した体験談が熱く語られた。

その後、小塚君が用意したスライドで本学の歴史、獨創一理祈念館の紹介、学生時代の写真のほか、過去5回の同窓会の様子が次々にスクリーンに映し出され、それは単に当日の参加者だけでなく、今回の不参加者も含めた4回生の仲間たちと過ごした青春の思い出が鮮やかに、時にホロ苦く思い起こされ、しばし感傷的になった。懇親会終了後、隣の部屋で二次会も行われ、さらに夜遅くまで旧交を深めた。

翌15日は、17名が再建された名古屋城本丸御殿を見学した。台風18号が迫り、蒸し暑さが増すなか、ガイドさんから名古屋城築城の由来、石垣にまつわる由緒等も聞きながら名古屋の歴史を勉強した。次いで隣接の能楽堂を見学し、金鯱かまぼこの入った「きしめん」を堪能した後、JR名古屋駅で解散となった。

この2日間にわたる同窓会に参加し、いつもながらこのクラスの「和」と、学生時代の「仲間のありがたさ」を痛感した。今後もこの宿泊同窓会が定期的に続くことを願っている。

(文責：新保 寛)

短期大学医療情報技術科1～12回生・医療科学部医療経営情報学科1・2回生 合同同窓会

回生の枠を
超えての同窓会

日時：平成25年9月29日　場所：グランコート名古屋　参加者：62名

平成25年9月29日(日)、藤田保健衛生大学短期大学医療情報技術科1～12回生と医療科学部医療経営情報学科1・2回生の合同同窓会をグランコート名古屋で開催しました。

今年は、医療情報技術科1回生は卒後15周年、6回生は10周年、11回生は5周年を迎える節目の年でもあります。また、合同同窓会ということで、学生時代を共に過ごした同級生との再会に加え、回生の枠を超えた親睦の場とすることを目的として開催しました。

当日は、全国から集まった同窓生と恩師の先生方の総勢62名に加え、ママとなった同窓生に連れられて多くの子供たちも参加してくれたことから、とても賑やかな会となりました。会が進むにつれ、在学中には出会うことのなかった、先輩、後輩との新たな絆が生まれ、今回の目的の一つでもある“回生の枠を超えた親睦の場”とすることができました。今後は、この絆を基に連携を深め、同窓生が成長できる取り組みにつなげていきたいと思います。

(代表幹事　坂田裕介(医情1))

医学部6回生卒後30周年記念クラス会「たなばた会」を開催して

2年に一度の「たなばた会」にぜひご参加ください！

日時：平成24年10月27日　場所：ホテル名古屋ガーデンパレス　参加者：29名

医学部6回生のクラス会「たなばた会」を平成24年10月27日にホテル名古屋ガーデンパレスで開催しました。このクラス会は卒後9年目の1992年に始まり、当初は夏季オリンピックの年すなわち4年に1回開催しておりました。しかしながら、寂しがりや(中年のおっさん、おばさんですが)がもっと頻回に会いたい、4年後に元気でいられるかどうかわからない(まだ大丈夫でしょう？)等々の希望から現在は2年に1回開催で、今回は第8回でした。当日は29名集まり、いつもと変わらず同じ様な話で盛り上がり、1次会、2次会と楽しい時間を過ごすことができました。また、今回、卒後初めて参加した方もあり、大変懐かしく、非常に良かったと思いますが、毎回、どうしても同じ様な顔ぶれになっているのも事実です。これまで、あまり参加されなかった方々は2年に1回は開催のご案内をお送りしますので、次回は是非ともご参加下さい。最後になりましたが、開催にあたり、同窓会から多大なるご支援を賜りましたことを深謝申し上げて、クラス会の報告とさせて頂きます。

（文責　安倍雅人）

2013年 国家試験合格率

■ 藤田保健衛生大学　医学部

学　科	資格名	区分	合格率%	全国平均
医　学　科	医　師	新卒	97.2%	93.1%
		既卒	57.1%	59.4%
		計	94.7%	89.8%

■ 藤田保健衛生大学 看護専門学校

学　科	資格名	合格率%	全国平均
看　護　科	看護師	100%	88.8%

■ 藤田保健衛生大学　医療科学部

学　科	資格名	合格率%	全国平均
臨床検査学科	臨床検査技師	100 %	77.2%
看護学科	看護師	99.1%	88.8%
	保健師	100 %	96.0%
放射線学科	診療放射線技師	86.8%	66.6%
リハビリテーション学科 理学療法専攻	理学療法士	100 %	88.7%
リハビリテーション学科 作業療法専攻	作業療法士	100 %	77.3%
臨床工学科	臨床工学技士	97.5%	75.3%
医療経営情報学科	診療情報管理士認定資格(注)	100 %	43.7%

(注)診療情報管理士認定資格のデータは、3年生の実績です。

FUJITA FESTIVAL 2013

～きらめき青春ドキドキ藤田～

FUJITA FESTIVAL 2013
実行委員長
藤田保健衛生大学　医療科学部　3年
橋本 翼

今年の学園祭は、FUJITA FESTIVAL 2013～きらめき青春ドキドキ藤田～をテーマに藤田学園の学生が一つとなり、日頃学生生活で学んだことを活かし、病院の患者さんや地域の方々をはじめ、より多くの方々に楽しんでいただくことを目標に、企画・運営して参りました。

当日は台風という予想もありましたが、無事に各セクションスタッフ、先生方とご協力のもと学園祭を終えることができました。今年は例年とは違った取り組みが特に多く、新しいことだらけでしたが、皆様のご協力により、どのイベントも大成功を収めることができました。

私たち学園祭実行委員会一同はより良い学園祭を成功させるため、約6ヶ月間話し合いを重ね、準備を進めてきました。先程も述べたようにステージの変更など新しい取り組みが多い中、学園祭を盛り上げたいという一心から、意見が合わないこともありましたが、学園祭を成功させたいという共通の目標を持っていたため、一致団結して無事に学園祭を終えることができました。

また、同窓会の方々には、補助金の支出など、あたたかいご支援をいただき感謝に堪えません。学園祭実施にあたっておおきな励みとなりました。ありがとうございました。

私自身、実行委員長という職を務めることで、集団をまとめる難しさ、仲間と協力して物事を進める大切さなどを学びました。このような経験は、将来、医療人となる私にとってかけがえのないものになると思います

最後になりましたが、実行委員会を代表して、守衛室の方々、施設部の方々、ご指導していただいた先生方、学園関係の方々、スタッフの学生さん、同窓会の方々、そしてご来場していただいた方々にこの場をお借りして厚くご御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

本部

球技大会

ミスコン

展示

笑いヨガ

少林寺拳法部による指圧体験

いこいの広場コンサート

平成25年度 活動報告

共同利用研究施設　分子生物学　准教授
山本 直樹(中央)

医療科学部　臨床検査学科　准教授
大橋 鉱二(左)

医学部　病理学　教授
堤 寛(右)

「いこいの広場コンサート」は、松田真谷子先生(元医療科学部音楽療法教授)の“患者さんに何かできることを…”という強い思いから、平成16年4月の第1回以来、退職されるまでの平成25年1月まで、通算103回のコンサートが開催されました。初期は少人数のミニコンサートだったと伺っています。その後、徐々に賛同者が増え、医学部や医療科学部のスタッフや学生ボランティアに支えられて、毎回150～180名の患者さんに集まっていただけるコンサートへと成長しました。

平成25年3月、松田先生が退職されることになりました。患者さんのためであると同時に、ボランティアとして参加する学生たちの成長にも大きく寄与してきた教育的なイベントとして、さらに100回を超えるコンサートの開催実績を鑑みて、このまま「いこいの広場コンサート」が終了してしまうのは“あまりにも惜しい”と、このコンサートに以前より関っていた私たち3名の考えが一致しました。

幸い、黒澤良和学長を統括責任者、堤を実行委員長とした“学園行事”として「いこいの広場コンサート」の継続が決まりました。現在、医療科学部教員、学園本部、キャリア支援課、病院医事課、看護部、施設課、ビジュアルセンターなどの教職員に加えて、ボランティア学生を束ねる学生責任者たちによって、『いこいの広場コンサート実行委員会』が組織されました。平成25年度の活動は、同年4月を皮切りに年7回の開催となりました。開催の詳細は、大学ホームページ下段の“いこいの広場コンサート”をご覧ください。

以前、病院地下にあったショッピングモール、スーパー、食堂街などは、入院生活という非日常から一時的にでも日常の生活感をとり戻すことが大切であるという故藤田啓介総長の発想で開設されたと伺っています。音楽は日常社会の窓口であり、「いこいの広場コンサート」が患者さんの入院生活や療養生活の癒しになればという思いを込めて、これからも継続していく所存です。学生たちにも、学部学年の垣根を越えたアセンブリ精神発揮の場として、「いこいの広場コンサート」にボランティアとして積極的に参加してほしいと思います。

第1回コンサートの開催当初から一貫した支援をいただいた「藤田学園同窓会」と「ユリカ株式会社」には、平成25年度以降も共催していただけることに深謝します。同窓会の皆さまにも、今後とも息の長い支援をよろしくお願いします。

同窓会各部会お知らせ

医学部部会(藤医会)

藤田学園同窓会の皆様におかれましては、ご多忙な日々をお過ごしのことと存じます。医学部会のご報告をさせて頂きます。

今年度は医学部におきまして、外山宏先生(7回生)、堀口明彦先生(7回生)、前島伸一郎先生(9回生)が、卒業生教授メンバーに加わりました。まさに、これからを担う卒業生の流れが変わりつつある時期といえます。これで、教授:18名、准教授:26名、講師:69名、助教:180名、助手:59名の併せて352名の卒業生スタッフ数になり心強い限りです。卒業生一人一人が力を合わせて、さらに素晴らしい藤田保健衛生大学医学部を築きあげられるよう、藤医会は全面的にバックアップして参りたいと思います。

一方、今年の3月には、残念ながら学園執行部内の不協和音が聞かれる時期がございました。藤医会からは「要求書」という形で、理事長先生に、1)学園内で解決すべき問題を、意図的にマスコミにリークする行為は極めて遺憾であり、今後同様のことが生じないよう努力してほしいこと、2)理事は、学園の価値を高め、在校生が学業、教職員が業務に専念し、また、学外関係者が誇りを持てるよう、私心なく学園の運営に努め、職務に邁進していただくこと、3)医学部長選挙に関しては、学園全体を含め、大局的な視点を持って運営するに相応しい方を、公明正大に選出していただくこと、以上を提言させて頂きました。

学園執行部の先生方とお話しさせて頂きますと、皆様がそれぞれ、藤田保健衛生大学の発展を願って行動しておられますことは、疑う余地がございません。執行部の方々には、「学園経営」と「藤田啓介先生のお心」とを両立し、変革すべきは行い、守るべきは守る姿勢を貫いていただきたいと心から願うばかりです。

私どもは、今後も学園の一つ一つの案件に対して、一方的な協力ではなく、フェアな判断ができるよう精進してまいります。そのためには、藤医会自体が一枚岩でいられる努力が必要でございます。そして、そうした力と理事長先生方をはじめとする学園執行部の方々との心が一致してはじめて、藤田保健衛生大学医学部の推進力が増すものであると思います。

今後も藤医会が、理事長先生をはじめ、学園執行部の良き理解者として、また学園が正しい方向に進むための道標の一つとして進化していけるよう、引き続きご指導賜りますようお願いいたします。

(藤医会会長　松山裕宇)

医療科学部

24年度の主な活動状況をお知らせ致します。

1．本年度は、第4回生、第12回生の同窓会通信費を補助しました。

同級会開催の予定がありましたら、名簿、宛名タックシールなどを印刷し、提供いたします。ぜひ、お知らせ下さい。

2．新卒業生への卒業記念品の贈呈

毎年、新卒業生に卒業を祝って印鑑付ボールペンを贈っています。今回も、好きな字体で注文できるように、工夫しました。また、本年度は4年間皆勤の新卒業生に副賞を贈りました。

3．医療科学部同窓会主催の卒業生による講演会(本年度は、臨床検査学科)の後援を行いました。他学科におかれましても、講演会の予定があれば、お知らせ下さい。

4．総会の開催

平成25年10月25日(金)18時30分より豊明市内「寿司レストゆたか」にて平成24年度の総会・懇親会を開催しました。多数の卒業生の方々に出席して頂きました。

お礼申し上げます。

(医療科学部同窓会会長　山内理充)

短期大学

今年度の藤田保健衛生大学短期大学部会活動としては、10月5日17時から名古屋市内の飲食店にて、短期大学同窓会総会及び懇親会を開催しました。総会では会長の瀬川善樹氏(3回生)の挨拶の後、以下の事項が審議、承認されましたので報告致します。

1．平成24年度活動・会計報告
2．平成24年度会計監査報告
3．平成25年度予算
4．平成25年度新役員

短期大学が閉校して約3年6ヶ月が経ち、部会活動も以前に比べて活発ではありませんが、本年1月に藤田学園同窓会の援助を受け、ホームページを新しくリニューアルしましたのでご覧下さい。今後、多くの卒業生の動向やご活躍等をホームページでご紹介し、掲載内容を充実していきたいと考えています。同窓会用メールアドレス(ホームページに掲載)から投稿をお願い申し上げます。

同窓生の皆様には、今後とも、短期大学同窓会を盛り上げていきたいと考えておりますので、ご協力の程、よろしくお願い致します。

看護専門学校

看護専門学校部会では、藤田学園同窓会を全面的にバックアップしております。主な活動内容は次の通りです。

新卒業生、既卒者及び学生名簿の管理を藤田学園同窓会名簿委員会と協力して行っております。（住所変更、勤務先変更の際は是非お知らせください。）また、藤田学園同窓会奨学基金への資金援助や新卒業生への卒業記念品贈呈、教育教材寄贈（今年度はDVD、画用紙ラック、トイレのエアータオルを寄贈）などです。

平成25年4月20日（土）に看護専門学校同窓会総会を開催いたしました。次年度は、平成26年4月19日（土）13時から、看護専門学校同窓会総会を藤田保健衛生大学看護専門学校にて開催予定です。同窓生の参加をお待ちしています。

三年課程では、この春に11回生の42名が卒業し、そのうちのほとんどが藤田学園関連の病院で勤務しています。そして、第14回の新入生を迎えました。

看護専門学校では、図書室の充実化が図られております。同窓生の図書の利用も歓迎しております。是非ご利用ください。

卒業生の動向について同窓生にお知らせしたいと思います。同窓会等を行われた際には、是非お知らせください。あけぼの杉に掲載したいと思います。よろしく、お願いいたします。

連絡先：藤田保健衛生大学看護専門学校事務局
（TEL 0562-93-2593、FAX 0562-93-9394）

リハビリテーション専門学校

リハビリテーション専門学校の教務主任や医療科学部リハビリテーション学科の学科長など長年に渡り藤田学園を支えて下さいました岡西哲夫教授が昨年度末でご退官されました。退官に際して専門学校4回生を中心に退官記念パーティーをH25年3月30日（土）、名古屋にて開催いたしました。参加者は17名とやや少ない状況ではありましたが、恩師に久しぶりに会いたいと遠方より参加した卒業生もみえました。記念パーティーは、岡西先生の退官記念講演と祝賀会の2部構成で行いました。岡西先生の講演では、昔から講義中に先生が言われていた「骨がコツ」などのギャグもみられ、参加者も学生時代に戻った気持ちで楽しく聞いている様子でした。祝賀会では、岡西先生の若かりし日々の話や参加者の学生時代の話に花が咲き、予定していなかった2次会も開催するほど会が盛り上がりとても楽しい時間を送ることができました。

これをきっかけに今後は定期的に同窓会を開催できればと考えておりますので、宜しくお願いします。（文責：山田将之）

名簿委員会

藤田学園同窓会会員名簿は初版（1981年）から数えて、今回で6回目の発刊となりました。獨創一理の建学理念を掲げ、1964年に故藤田啓介総長先生によって創立された藤田学園は来年、創立50周年を迎えます。この記念すべき節目に合わせて発刊された今回の「'13名簿」は、学園と同窓会との結びつきをより強固なものにするものだと考えます。人と人とのつながりの希薄さが叫ばれる昨今ですが、同窓会会員相互のみならず学園とのつながりをいつまでも持ち続けるため、この同窓会名簿がその一助となれば名簿委員会として嬉しい限りです。

さて、平成25年3月の卒業生数が620名で、同窓会員数は延べ27,203名になりました。一方で、住所不明者数の合計は4,276名で、全会員数の15.7％です。物故者は251名です。名簿委員会としては、各学年の幹事の方々に、10年、20年などの節目の年に当たるクラス会などの行事を利用して、同窓生名簿の調査・訂正をお願いしております。しかしながら、一旦郵便物が届かなくなりますと、なかなか新住所が判明することがなく数年が経過することとなります。その結果、住所不明者数が累積することとなります。もし、会報が届いていないという同窓生がお近くにいらっしゃいましたら、同窓会ホームページより変更届を登録していただくようお願いいたします。

また、名簿発刊作業のための調査の際に、個人情報保護の観点から様々なご意見とご提案をいただきました。これらのご意見・ご提案を真摯に受け止め、会員の皆様はもちろん、ご家族様また職場の方々に迷惑の掛かることのないよう、「藤田学園同窓会個人情報保護規程」に基づき、細心の注意を払い、名簿管理を行いたいと存じます。懐かしい顔の見える同窓会名簿の管理と発行を目指しております。皆様のご協力をお願いいたします。

〒470-1192
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
藤田学園同窓会事務局
藤田学園同窓会名簿委員会
電話・ファックス：0562-93-5674
e-mail：dosokai@fujita-hu.ac.jp

同窓会会員の皆様へ 都道府県支部を設立しませんか！

藤田学園同窓会会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。全国の職場では、たくさんの藤田学園同窓生がご活躍のことと存じます。ところが、年齢が離れ、さらに職種が異なりますと、なかなか藤田学園同窓生として知り合う機会は意外に少ないのではないかと想像いたしております。

そこで、同窓会からの提案です。皆様の都道府県単位で、同窓会支部を立ち上げませんか？ まず、第1段階として同じ職種の集まりでも構いません。同窓会支部活動を通じて、世代と職場の垣根を越えた親睦を深めることができれば、お互いの情報交換のみならず、母校の旧知を訪ね、新しきを知る上で、大いに役立つのではないでしょうか。

つきましては、同窓会支部の設立に際し、わずかばかりではありますが支援をいたします。支部設立を計画している幹事さんは、申込書をダウンロードし、必要事項を記入し、必要書類を添付し、同窓会宛にお申込みください。

また、過去に設立・活動していたが、最近は活動休止状態である支部の再活動に際しても支援を行いますので、同様にお申し込みください。

1．支援の内容
　1)支部設立費として上限100,000円（設立時の支部規模に応じて調整します。）
　2)案内状を発送するための「宛名シール」
2．支部設立のための手続き
　1)支部設立趣意書※（様式自由、発起人5名の署名と捺印）
　2)支部会則※（ご連絡いただければ、簡単な会則の見本を差し上げます。）
　3)支部会員名簿※
　4)支部懇親会等行事企画書
　※ は必須
3．支部設立後に提出する書類
　1)支部設立援助金領収書※
　2)「あけぼの杉」への投稿記事※（400 ～ 600字）
　3)支部設立式および設立記念懇親会などの集合写真
　※ は必須
4．申込み先
　〒470-1192　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
　藤田学園同窓会　宛
　Tel & Fax：0562-93-5674

同窓会会員の皆様へ 周年記念同窓会を応援します！

藤田学園同窓会では、卒業後10年、20年、25年、30年、40年、50年 を 迎える同窓会の企画に対して、わずかばかりですが支援をいたします。同窓会を計画している幹事さんは、申込書を同窓会ホームページよりダウンロードし、必要事項を記入し、必要書類を添付し、同窓会宛にお申込みください。

1．支援の内容
　1)運営費として上限100,000円（参加人数・企画規模に応じて調整します）
　2)案内状を発送するための「宛名シール」
2．申込書に添付する書類
　1)周年記念同窓会企画書
　　①出身学校、学部、学科、専攻、回生（卒業年）、幹事名（主、副）
　　②同窓会名（例：医学部○○回生卒後10周年記念懇親会）
　　③開催日時、開催場所（会場名、住所、電話番号など）
　　④予定参加者人数
　　など、同窓会の概略が分かるように作成してください。
3．同窓会後に提出する書類
　1)「あけぼの杉」への投稿記事（必須、400 ～ 600字）
　2)周年記念同窓会の集合写真
　3)周年記念同窓会の領収書コピー
4．申込み先
　〒470-1192　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
　藤田学園同窓会　宛
　Tel & Fax：0562-93-5674

ご採用のお願い

藤田学園同窓会では学校法人藤田学園キャリア支援課と連携し、本学学生と卒業生（同窓会会員）を対象に就職活動支援を行っております。厳しい経済状況の中でのご採用計画も大変ご苦労の多いことと存じますが、何卒本学学生と卒業生のご採用を宜しくお願い申し上げます。

1．「求人申込書」について
　求人の申し込みは、本学所定の「求人申込書」をご利用いただくか、貴施設で作成されました「求人票」でも結構ですので、ご送付頂ければ幸いです。
　※E-mailあるいはFAXにてお申し込みいただければ、医療科学部と看護専門学校の紹介を載せたパンフレットとともに至急郵送させていただきます。
　※必ず貴施設名（団体名）・所在地・電話番号・ご担当部署名・ご担当者名及び求人申込書希望の旨を明記して下さい。
　※本学所定の書式は、プリントアウトしてご利用下さい。（Excelファイル）
　◎病医院、検査・健診センター様
　　本学所定の「求人申込書」
　◎企業、研究所様
　　本学所定の「求人申込書」
2．「施設見学・説明会案内」について
　本学所定の様式はございませんので、貴施設作成のものをご送付下さい。なお、掲示スペースの関係上、様式はA4判でお願い申し上げます。
3．「貴施設資料」について
　貴施設カタログ・パンフレット等、資料がございましたら、1部「求人申込書」とともにご送付下さいますようお願い申し上げます。
4．「採用内定」について
　採用内定のご通知は、本人とキャリア支援課宛に文書でお送り下さいますようお願い申し上げます。
5．藤田学園同窓会事務局及びキャリア支援課窓口について
　就職に関するご連絡は、求人、求職を問わず、全て下記（同窓会またはキャリア支援課）にお願いいたします。

〒470-1192　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会
E-mail：dosokai@fujita-hu.ac.jp
電　話：0562-93-5674（直通）
ＦＡＸ：0562-93-5674

学校法人藤田学園 キャリア支援課
E-mail：shushoku@fujita-hu.ac.jp
電　話：0562-93-2514・9480（直通）
ＦＡＸ：0562-93-7211

受付時間：月～金曜日
　午前8時45分～ 17時
　土曜日
　午前8時45分～ 12時30分
休 業 日：日曜・祝祭日・学園指定の休日（6月11日、10月10日）
　冬季休業日（12月29日～1月3日）
※キャリア支援課は医療科学部8号館1階です。

第34回 藤田学園同窓会総会議事録

日時：平成25年10月19日(土)　15：30～16：25
場所：ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋7F ザ・グランコート
出席代議員：19名(委任状17名)計36名／50名
司会：医療科学部・丸田

開会に先立ち、志半ばにして逝去された同窓生と藤田学園教職員に対し黙祷が捧げられた。

Ⅰ．開会の辞(専門学院・沖田)

Ⅱ．会長挨拶(医学部・近松)

Ⅲ．議長選出

近松会長が会長として発言の場が多く議長職に支障をきたす可能性があることから、定款16条に則り、10月9日に開催された理事会の承認により副会長の丸田氏が議長に選任された。

Ⅳ．代議員紹介

各部会から選出された代議員が紹介された(別紙代議員名簿)。

Ⅴ．議事

1．平成24年度事業報告

平成24年度において以下の事業が行われたことが報告された。

⑴事業(看護専門学校・小島)

1)部会・周年記念同窓会への支援事業

①医学部6回生の30周年記念同窓会

②短大衛生技術科6回生の40周年記念同窓会

③医学部27回生の10周年記念同窓会

④短大・医療情報科と医療科学部・医療経営情報学科の合同同窓会

2)学会並びに学術講演会の支援

①第28回日本脊髄外科学会

②第28回日本義肢装具学会学術大会

③日本看護技術学会第12回学術集会

④第26回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会

⑤第18回日本心療内科学会総会・学術大会

3)愛知県私立大学同窓会連合会の会員継続

平成25、26年度の2年間、近松会長が連合会会長に就任した。

4)藤田学園創立50周年記念事業への寄付

5)いこいの広場コンサート後援

6)豊明市制40周年記念事業「第九歓喜の歌」演奏会支援

7)日本舞踊西川流家元西川右近氏の医療科学部学生への講演「日本舞踊とリハビリテーション」支援

8)平成25年度新入学生へ入学記念品「獨創一理USB memory」の贈呈

9)学園キャリア支援課とタイアップしての求人・求職斡旋事業

10)機関誌「あけぼの杉」の発行

11)「卒業生の動向調査」アンケートの実施

12)第1回獨創一理ワークショップの開催

13)住所不明者の調査及び「'13名簿藤田学園同窓会誌」発行

14)個人情報漏洩保険賠償保険継続

15)FUJITA FESTIVAL 2013協賛

16)同窓会奨学基金の充実と貸与事業

17)獨創一理祈念館運営協力

18)同窓会館維持運営

19)同窓会Home Pageの管理および住所変更頁の新設、短大部会HPの支援

20)50周年記念事業のHPの立ち上げ

21)平成25年度より学園に委託し、同窓会費の代理徴収を実施

⑵機関誌(短大・内藤)

平成24年度のニュースを編集し、さらに総会の議事録を掲載し、「機関誌あけぼの杉」を11月下旬に発行・発送する予定であることが報告された。

⑶名簿(看護専門学校・坂)

現在、総会員数は27,203名、住所不明者は4,226名、物故者は251名である。本年8月に学園創立50周年を記念して名簿を発刊した。名簿発刊に際し、多大な協力をいただいたことに対し感謝が述べられた。また、住所不明者の調査と、特に学内会員の住所変更届提出が依頼された。

⑷学術(医療科学部・山内)

以下の本学関連の学会並びに学術講演会を支援したことが報告された。

①第28回日本脊髄外科学会

②第28回日本義肢装具学会学術大会

③日本看護技術学会第12回学術集会

④第26回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会

⑤第18回日本心療内科学会総会・学術大会

⑸奨学金(医学部・松井)

平成24年度は医学部6年生1名と同4年生4名に、それぞれ月額6万円を貸与した。また、卒業生7名より順調に返還されていることが報告された。年々と奨学金事業の意義・重要性が増しており、更なる奨学基金の充実が必要である。

2．平成24年度決算報告(医療科学部・原田)

平成24年度藤田学園同窓会収支計算書、藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書、藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金収支計算書について会計報告が行われた(別紙)。

3．平成24年度監査報告(医療科学部・村田)

平成24年度 藤田学園同窓会収支計算書及び財産目録、平成24年度藤田学園同窓会奨学金基金収支計算書及び財産目録、平成24年度藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金収支計算書及び財産目録について医学部・内藤監事と医療科学部・村田監事より監査報告が行われた(別紙)。

採決の結果、以上の平成24年度の事業及び決算が満場一致で承認された。

4．理事、会長、副会長の選任

定款第24条に則り、各部会より選出された理事より会長に近松均氏、副会長に松山裕宇氏と丸田一皓氏、以下それぞれの委員会を担当する理事が満場一致で承認された。理事の任期は平成25年度、26年度の2年である。

5．平成25年度事業計画案(医療科学部・丸田)

以下のように事業計画が提案された。

1)総会及び懇親会の開催

2)支部設立の支援

3)各部会活動・周年記念同窓会支援

4)本学同窓生・教員関連の学会並びに学術講演会の支援

5)各種事業の支援

①愛知県私立大学同窓会連合会の会員継続

②藤田学園創立50周年記念事業寄付

③いこいの広場コンサート後援

④在学生の国際交流等支援

⑤学園祭への支援

⑥新入学生へ入学記念品「獨創一理USB memory」の贈呈

6)機関誌「あけぼの杉」の発行

7)名簿管理

8)同窓会奨学基金の充実と貸与事業

9)藤田学園創立50周年同窓会記念事業基金積み立て

10)獨創一理祈念館運営協力

11)同窓会館維持運営

12)同窓会ホームページの管理

13)藤田学園創立50周年同窓会記念事業

①記念誌「Our Voices」の発行
②記念講演会の開催
③記念パーティの開催
14)その他

6．平成25年度予算案(医療科学部・原田)

平成25年度藤田学園同窓会収支予算案、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算案、藤田学園創立50周年同窓会記念事業収支予算案が提案された。

審議の結果、平成25年度の事業計画及び予算が満場一致で承認された。(平成25年度藤田学園同窓会収支予算、藤田学園同窓会奨学金基金収支予算、藤田学園創立50周年同窓会記念事業収支予算)

7．藤田学園創立50周年同窓会記念事業計画案(医学部・近松)

平成25年度事業として予算が承認された「藤田学園創立50周年同窓会記念事業」について、詳細な内容が説明され、会員全員の協力が要請された。

1)メインテーマ

藤田学園創立から50年が経過する節目の時期にあたり、お世話になった母校と恩師に感謝の意を捧げ、今日の同窓生の活躍をともに喜ぶ。

2)記念誌「Our Voices」の企画

学園と共に発展の道のりを歩んだ同窓生の視点でこの50年間を総括し、母校との関わりにおいての重要な事実や資料を後世に伝承する。

そして、在学生がこの記念誌を読んで、学生生活の励みになる内容を意識し作り上げたい。

①巻頭言
②藤田学園同窓会の沿革
③歴代会長挨拶
④50年を振り返る座談会(クラブ活動、国家試験対策など)
⑤同窓生の動向調査
⑥キャンパス散策
⑦各部会同窓会沿革
⑧各同窓会部会長挨拶
⑨部会同窓会活動
⑩同窓生の一言(出来るだけ多くの同窓生からメッセージを募集する)
⑪)索引
⑫)編集後記

3)講演会の企画

学園同窓会と各部会の50年間の歩みを報告、または著名人の講演会
平成26年10月11日(土)
16：00～18：00
ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋5F ローズルーム

4)記念パーティ「藤田学園創立50周年感謝の集い」の企画

恩師に感謝し、同窓生との再開を喜び、交流を深める。
平成26年10月11日(土)
18：00～20：00
ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋7F ザ・グランコート

8．質疑応答

1)平成25年度入学生より学園による同窓会費の代理徴収が実施され、新入生と在学生全員が同窓会に入会したことが報告された。

2)奨学生採用について、平成25年度は医療科学部からも2名が新規採用されていることが報告された。

9．議長解任

10．閉会の辞(医学部・松山)

引き続き理事長、大学長等多数の恩師の臨席の元、懇親会が行われた。

2014年度 入学試験スケジュール

藤田保健衛生大学 大学院

研究科名称(定員)	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科 (68名)	前期募集	68名	9月17日(火)	9月25日(水)	本学
	後期募集		2月18日(火)	2月26日(水)	本学
保健学研究科 (30名)	第一次募集	30名	9月 2日(月)	9月 5日(木)	本学
	第二次募集		2月24日(月)	2月27日(木)	本学

藤田保健衛生大学

学部・学科名称(定員)		試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
医学部	医学科 (110名)	高等学校長推薦	20名	11月10日(日)	11月15日(金)	本学
		大学課程履修者自己推薦	上記の内若干名			
		一般入試(前期)	60名	学科：1月26日(日)	1月31日(金)	本学・東京・大阪・広島・福岡
				面接：2月 5日(水)	2月12日(水)	本学
		一般入試(後期)	25名	学科：3月 2日(日)	3月 7日(金)	本学・東京
				面接：3月11日(火)	3月14日(金)	本学
		センター試験利用入試	5名	一次：センター試験	2月17日(月)	
				二次：2月21日(金)	2月28日(金)	本学
医療科学部	臨床検査学科 (95名)	推薦入試	15名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		一般前期入試	61名	1月29日(水)	2月 5日(水)	本学・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	10名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	7名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月20日(木)	
	看護学科 (100名)	推薦入試	30名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		指定校推薦	上記の内 約5名			
		社会人自己推薦	上記の内 約5名			
		一般前期入試	55名	1月29日(水)	2月 5日(水)	名古屋・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	7名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	5名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	3名	センター試験	3月20日(木)	
	放射線学科 (50名)	推薦入試	7名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		一般前期入試	30名	1月29日(水)	2月 5日(水)	本学・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	5名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	5名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	3名	センター試験	3月20日(木)	
	リハビリテーション学科 理学療法専攻 (45名)	推薦入試	12名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		一般前期入試	23名	1月29日(水)	2月 5日(水)	本学・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	4名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	4名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月20日(木)	
	リハビリテーション学科 作業療法専攻 (35名)	推薦入試	9名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		一般前期入試	18名	1月29日(水)	2月 5日(水)	本学・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	3名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	3名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月20日(木)	
	臨床工学科 (40名)	推薦入試	8名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		一般前期入試	20名	1月29日(水)	2月 5日(水)	本学・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	5名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	5名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月20日(木)	
	医療経営情報学科 (33名)	推薦入試	12名	11月16日(土)	11月21日(木)	本学
		一般前期入試	13名	1月29日(水)	2月 5日(水)	本学・東京・金沢・浜松 四日市・大阪・福岡
		一般後期入試	2名	2月28日(金)	3月 7日(金)	本学
		センター試験利用前期入試	4名	センター試験	2月17日(月)	
		センター試験利用後期入試	2名	センター試験	3月20日(木)	

藤田保健衛生大学 看護専門学校

学科名称(定員)	試験区分	募集人員	試験日	合格発表日	試験会場
看護科 (40名)	推薦入試	約15名	12月 7日(土)	12月11日(水)	本校
	一般入試	約25名	2月 1日(土)	2月 7日(金)	本校

問い合わせ先　藤田保健衛生大学　広報部　〒470-1192　愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98
TEL　0562-93-2490　FAX　0562-93-4597　URL　http://www.fujita-hu.ac.jp/